

# 冬期の生活に関する意識調査

## 結果報告書

平成19年3月

札幌市福祉のまちづくり推進会議

冬のバリアフリー部会

# § 目 次 §

## 調査の概要

1	調査期間	1
2	調査方法	1
3	調査対象者	1
4	回収結果	1
5	回答者の概要	1
	性別	1
	年齢	2
	お住まいの区	2
	冬期間の外出頻度	2
	冬期間の外出の目的（複数回答）	3
	現在のおからだの状況	3
	あなたの障がいの内容	3
	回答者属性クロス集計	4

## 調査結果

問 1	冬期間の生活で、他の季節と比べて困ったこと	5
問 2	冬期間に利用する主な公共交通機関	7
問 3	冬期間、地下鉄やJRを利用して困ったこと	9
問 4	冬期間、バスや市電を利用して困ったこと	11
問 5	公共交通機関が乱れた場合に優先して知りたい情報	13
問 6	公共交通機関が乱れた場合の情報の入手先	15
問 7	冬期間、歩道を歩いて困ったこと	17
問 8	今後の除雪において強化してほしいこと	19
問 9	現在の財政状況の中で除雪のあり方	21
問 10	冬期間の協力をお願いしている項目で知っているもの	23
問 11	高齢者や障がいのある方などに対して、 除排雪や安全確認などの支援をしたことがありますか	25
問 12	「支援したことがある」と回答した方の立場	27
問 13	冬期間、支援してほしいもの	29
問 14	冬期間、障がい者が困っている場面で声をかけて手助けいたりしますか ...	31
問 15	手助けしない理由	33
問 16	「心のバリアフリー」を実現していくために必要なこと	35
問 17	心のバリアフリーを推進についての意見	37
問 18	事業に従事している立場からのバリアフリーについての意見	37

# 調査の概要

## 1 調査期間

平成 18年12月10日～19年1月31日

## 2 調査方法

各団体、協会に依頼し、回収

## 3 調査対象者

アンケート依頼先	送付数
シニア大学(老人クラブ連合会)	80
バス協会	20
ハイヤー協会	20
市立高等専門学校	20
芸術の森地区町内会	30
交通権を考える連絡協議会	40
身体障害者福祉協議会	40
計	250

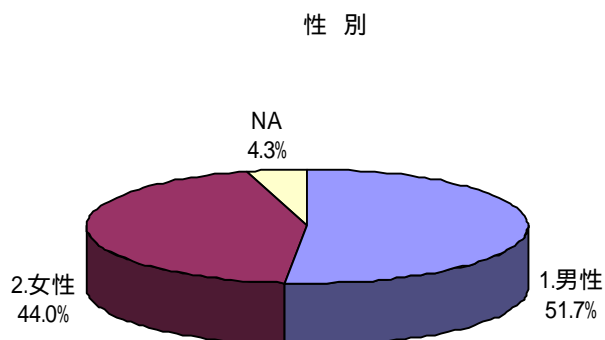
## 4 回収結果

・回収数 207 通

・回収率 82.8 %

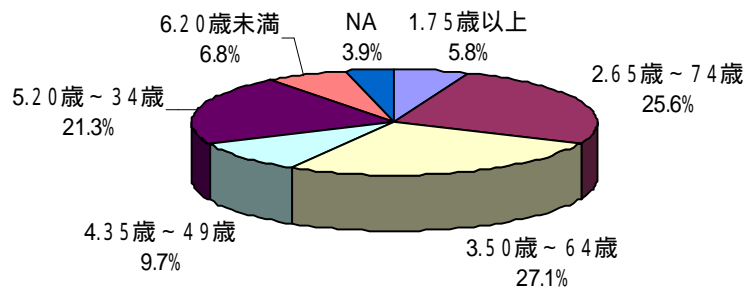
## 5 回答者の概要

性別



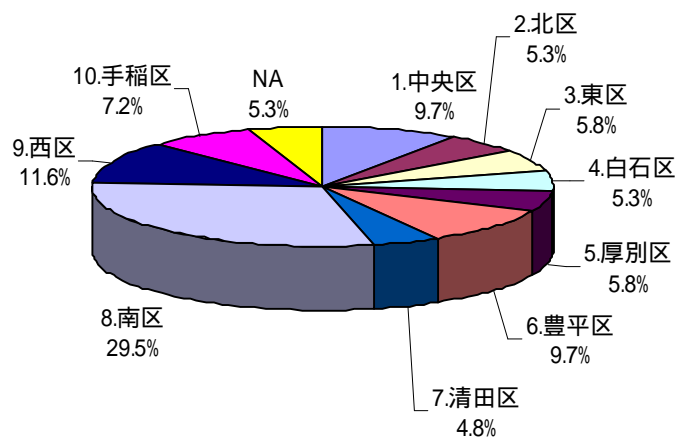
## 年齢

年齢



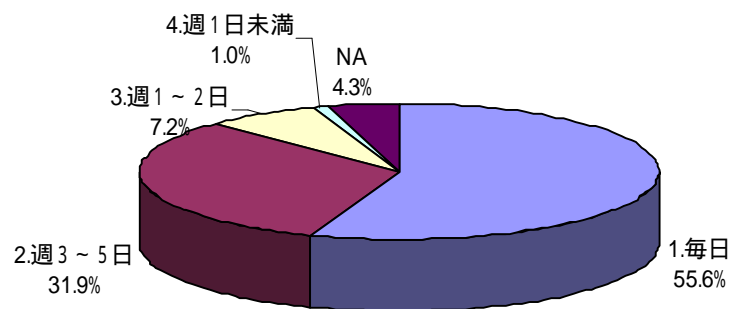
## お住まいの区

お住まいの区

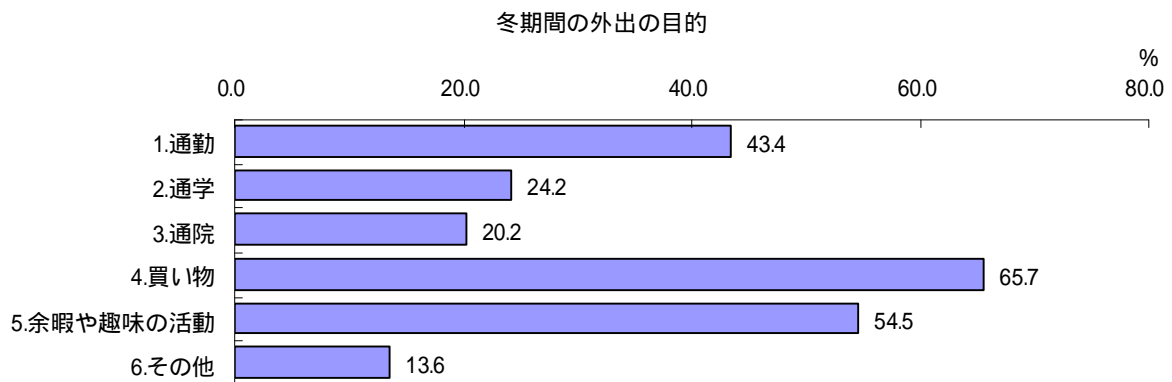


## 冬期間の外出頻度

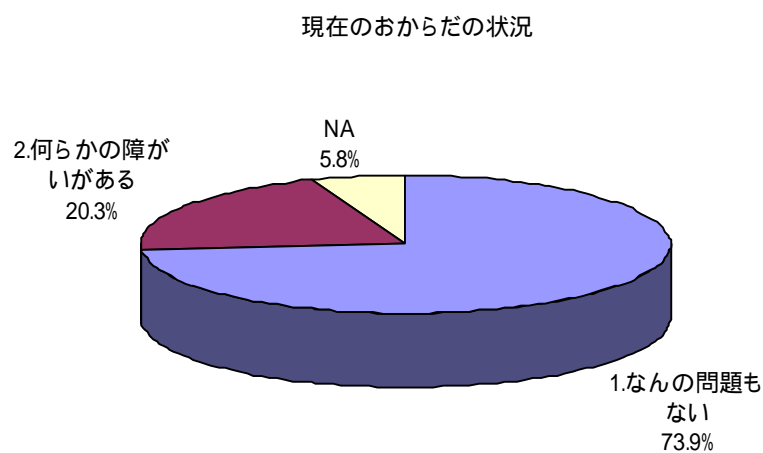
冬期間の外出頻度



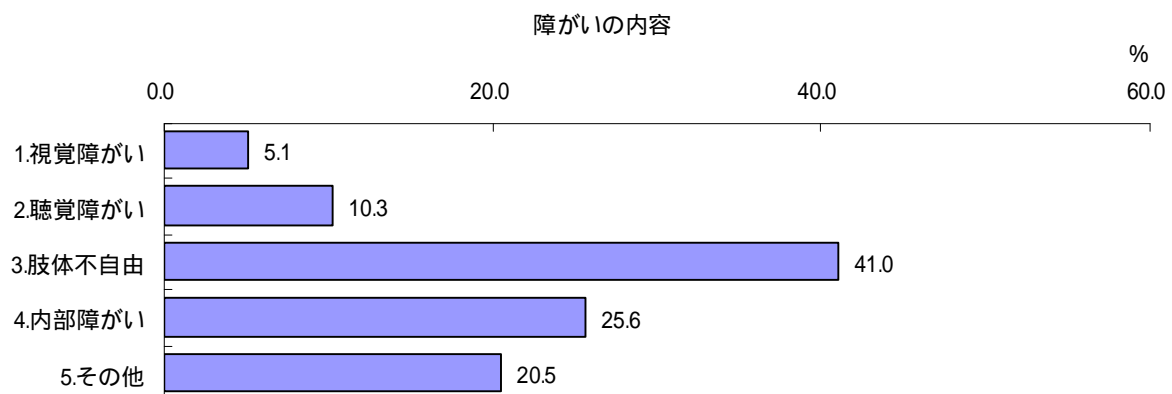
## 冬期間の外出の目的（複数回答）



## 現在のおからだの状況



\* 付属の問 F 6 で 2 と答えた方におたずねします。あなたの障がいの内容について、あてはまる番号にいくつでもをつけてください。



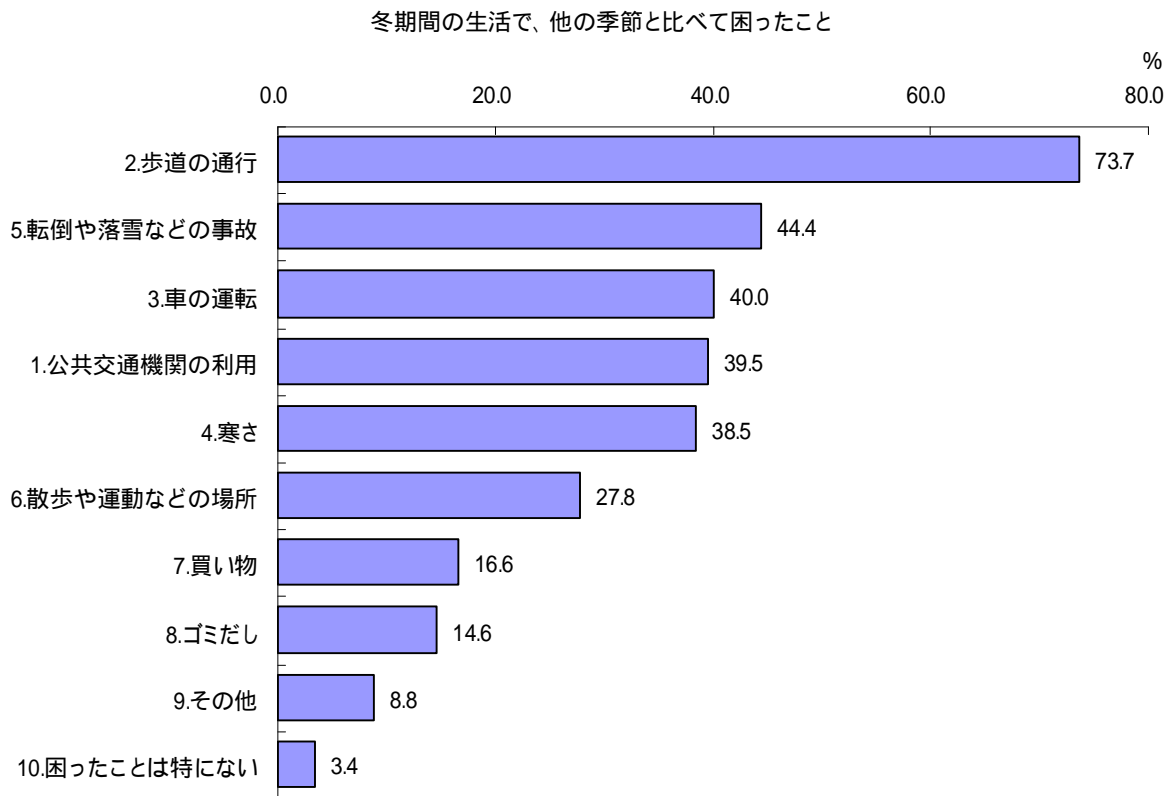
回答者属性クロス集計

	1.75歳以上	2.65歳～74歳	3.50歳～64歳	4.35歳～49歳	5.20歳～34歳	6.20歳未満	NA	計
1.男性	9	34	35	14	14	1	-	107
2.女性	3	19	21	6	30	12	-	91
NA	-	-	-	-	-	1	8	9
計	12	53	56	20	44	14	8	207
1.中央区	-	4	9	1	3	3	-	20
2.北区	-	1	5	4	1	-	-	11
3.東区	1	6	-	2	3	-	-	12
4.白石区	2	5	2	-	2	-	-	11
5.厚別区	-	6	1	-	3	2	-	12
6.豊平区	1	6	1	4	4	4	-	20
7.清田区	-	3	1	2	4	-	-	10
8.南区	6	15	20	2	17	1	-	61
9.西区	-	5	11	4	4	-	-	24
10.手稲区	2	2	6	1	2	2	-	15
NA	-	-	-	-	1	2	8	11
計	12	53	56	20	44	14	8	207
1.なんの問題もない	11	34	36	15	42	14	1	153
2.何らかの障がいがある	1	17	17	5	2	-	-	42
NA	-	2	3	-	-	-	7	12
計	12	53	56	20	44	14	8	207

# 調査結果

## 冬期間の生活

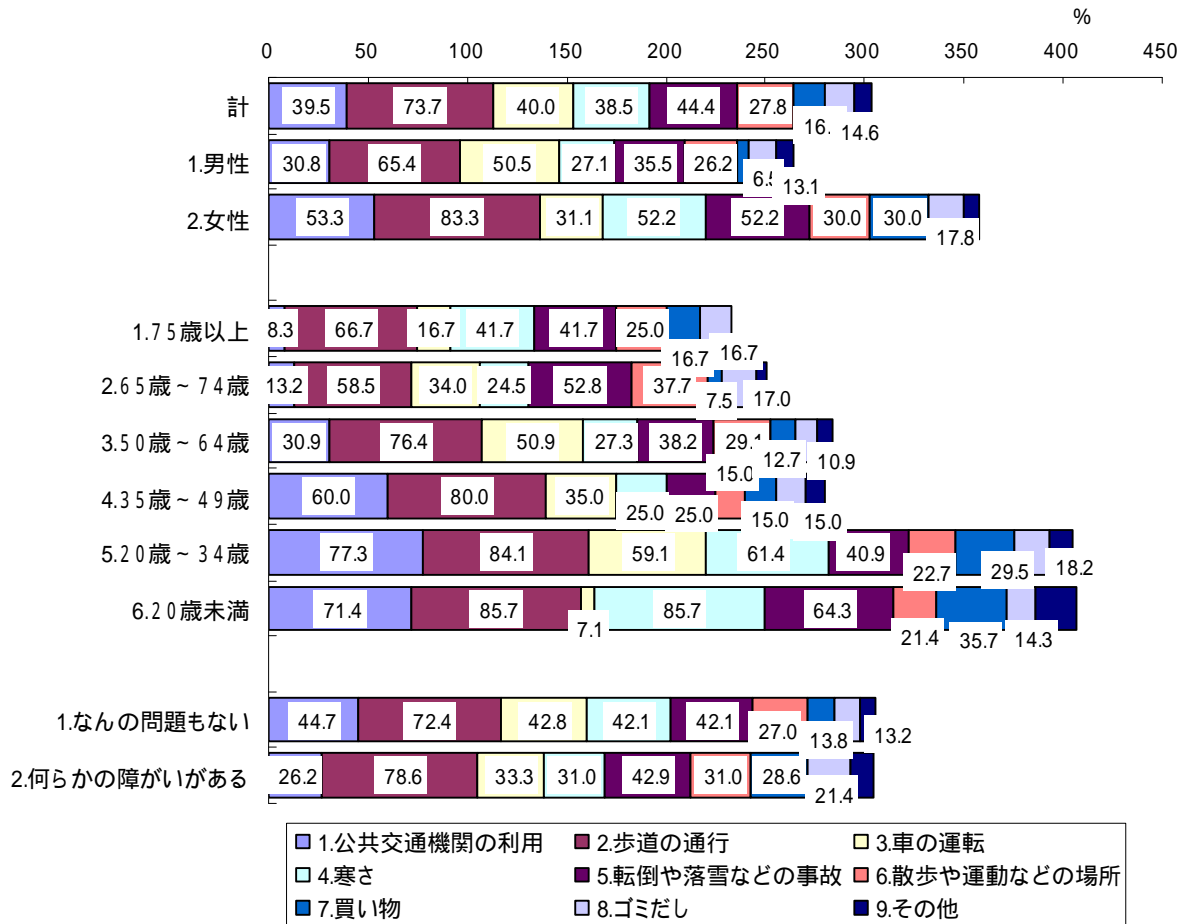
問1 あなたの冬期間の生活で、他の季節と比べて困ったことは何ですか。あてはまる番号にいくつでも        をつけてください。



「冬期間の生活で、他の季節と比べて困ったことは何ですか。」と聞いたところ、「2.歩道の通行」が73.7%と2位以下を引き離して最も高い割合を占めている。以下、「5.転倒や落雪などの事故」(44.4%)、「3.車の運転」(40.0%)、「1.公共交通機関の利用」(39.5%)、「4.寒さ」(38.5%)、「6.散歩や運動などの場所」(27.8%)、「7.買い物」(16.6%)、「8.ゴミだし」(14.6%)、「9.その他」(8.8%)と続き、「10.困ったことは特にない」はわずか3.4%である。

冬期間の生活で困ったことは、「歩道の通行」が全体の73.7%占めている。

冬期間の生活で他の季節と比べて困ったこと



性別で見ると、「2.歩道の通行」が男性（65.4%）、女性（83.3%）共に最も高い割合になっている。また、割合が50%を超えている項目は、男性が「2.歩道の通行」（65.4%）、「3.車の運転」（50.5%）の2項目、女性が「1.公共交通機関の利用」（53.3%）、「2.歩道の通行」（83.3%）、「4.寒さ」（52.2%）、「5.転倒や落雪などの事故」（52.2%）の4項目である。

年齢別では、「2.歩道の通行」が各年代で最も高い割合を占めている。

「1.公共交通機関の利用」は「6.20歳未満」（71.4%）、「5.20歳～34歳」（77.3%）、「4.35歳～49歳」（60.0%）で高く、「3.車の運転」では、「5.20歳～34歳」（59.1%）、「4.50歳～64歳」（50.9%）で50%を超えている。

「4.寒さ」では、「6.20歳未満」（85.7%）、「5.20歳～34歳」（61.4%）の若い年代で高い割合になっている。

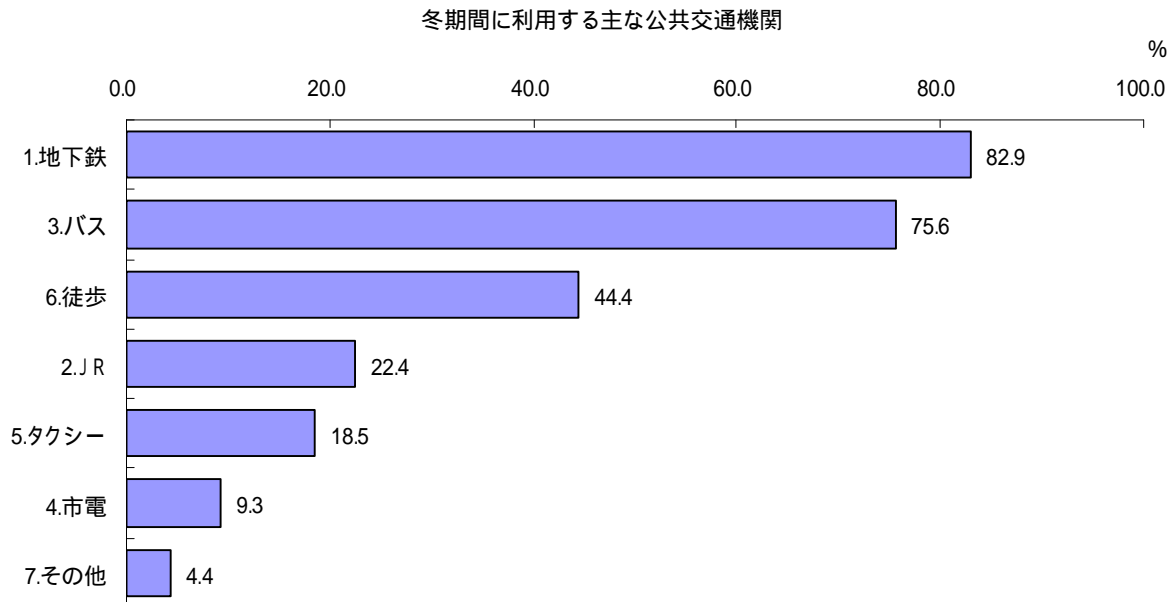
65歳以上の高齢世代では、「2.歩道の通行」が「5.65歳～74歳」（58.5%）、「1.75歳以上」（66.7%）と6割前後の高い割合を占めている。

全体的には、若い年代の方が「冬期間の生活で、他の季節と比べて困ったこと」の項目を多く回答する傾向が見られる。また、「2.何らかの障がいがある」と回答した人は「2.歩道の通行」（78.6%）が、「1.なんの問題もない」人の72.4%よりも6.2ポイント高い。



## 公共交通機関

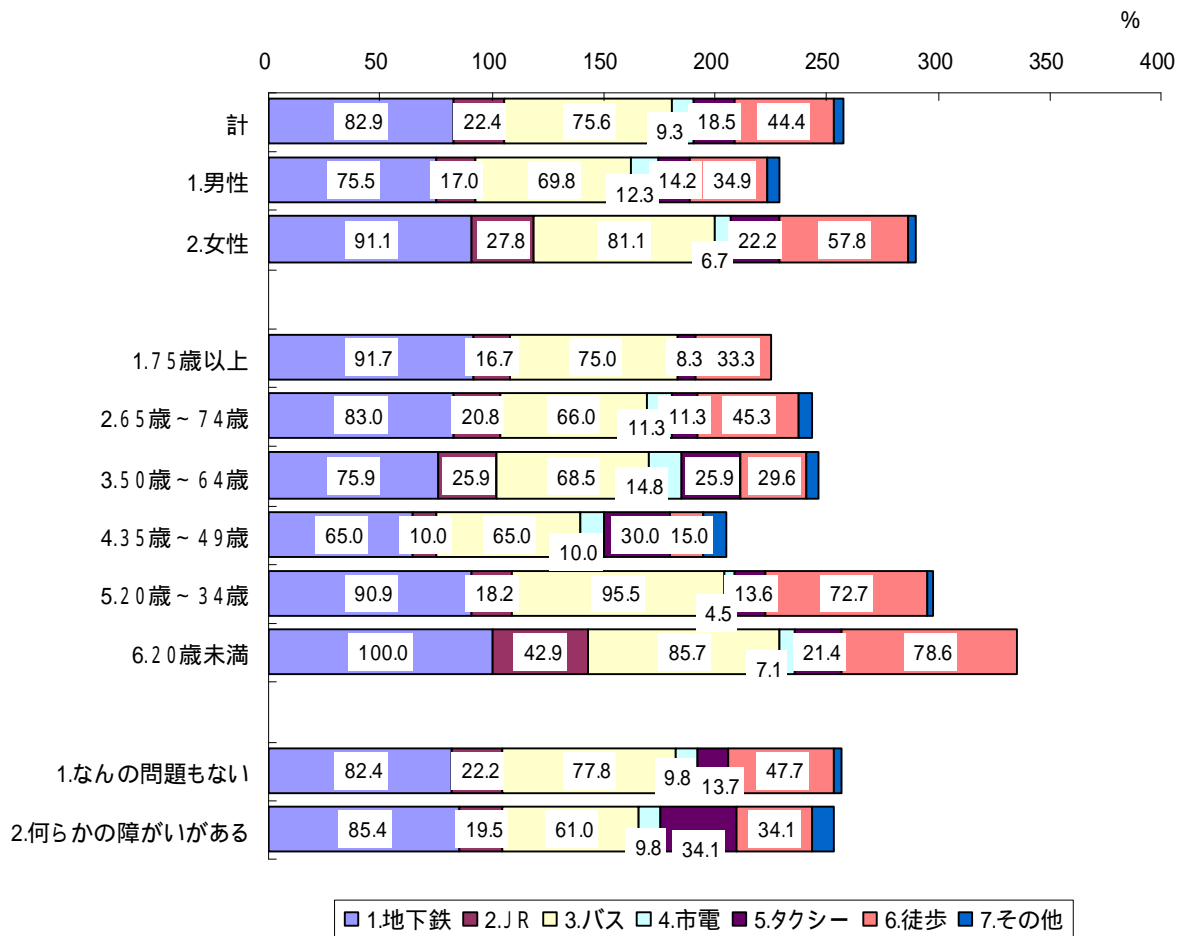
問2 冬期間に利用する主な公共交通機関は何ですか、あてはまる番号にいくつでもつけてください。



「冬期間に利用する主な公共交通機関」は「1.地下鉄」(82.9%)が8割を超えており、次いで「3.バス」(75.6%)が高くなっている。以下、「6.徒歩」(44.4%)、「2.JR」(22.4%)、「5.タクシー」(18.5%)、「4.市電」(9.3%)などとなっている。

冬期間に利用する主な公共交通機関は、「1.地下鉄」(82.9%)、次いで「3.バス」(75.6%)である。

冬期間に利用する主な公共交通機関

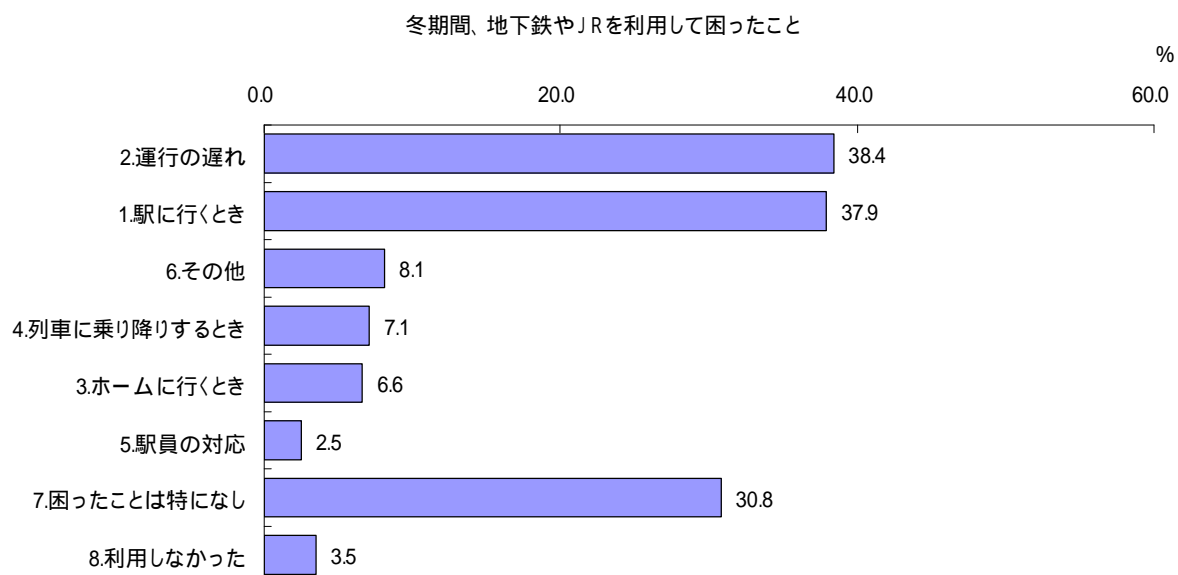


性別では、男女共に「1.地下鉄」、「3.バス」の順に利用割合が高い。しかし、「6.徒歩」は「1.男性」(34.9%)に対して「2.女性」(57.8%)と20ポイント以上も男性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「1.地下鉄」と「3.バス」が各年代で高い割合を占めている。中でも「6.20歳未満」では「1.地下鉄」(100.0%)、「3.バス」(85.7%)と他の年代よりも高い割合になっている。一方、「6.徒歩」に目を向けると、「5.20歳～34歳」(72.7%)、「6.20歳未満」(78.6%)と若い年代の割合が高く、他の世代の割合は50%に満たない。

「2.何らかの障がいがある」と回答した人は「1.なんの問題もない」人よりも「1.地下鉄」や「6.徒歩」の割合は高いものの、他の公共交通機関では低くなっている。

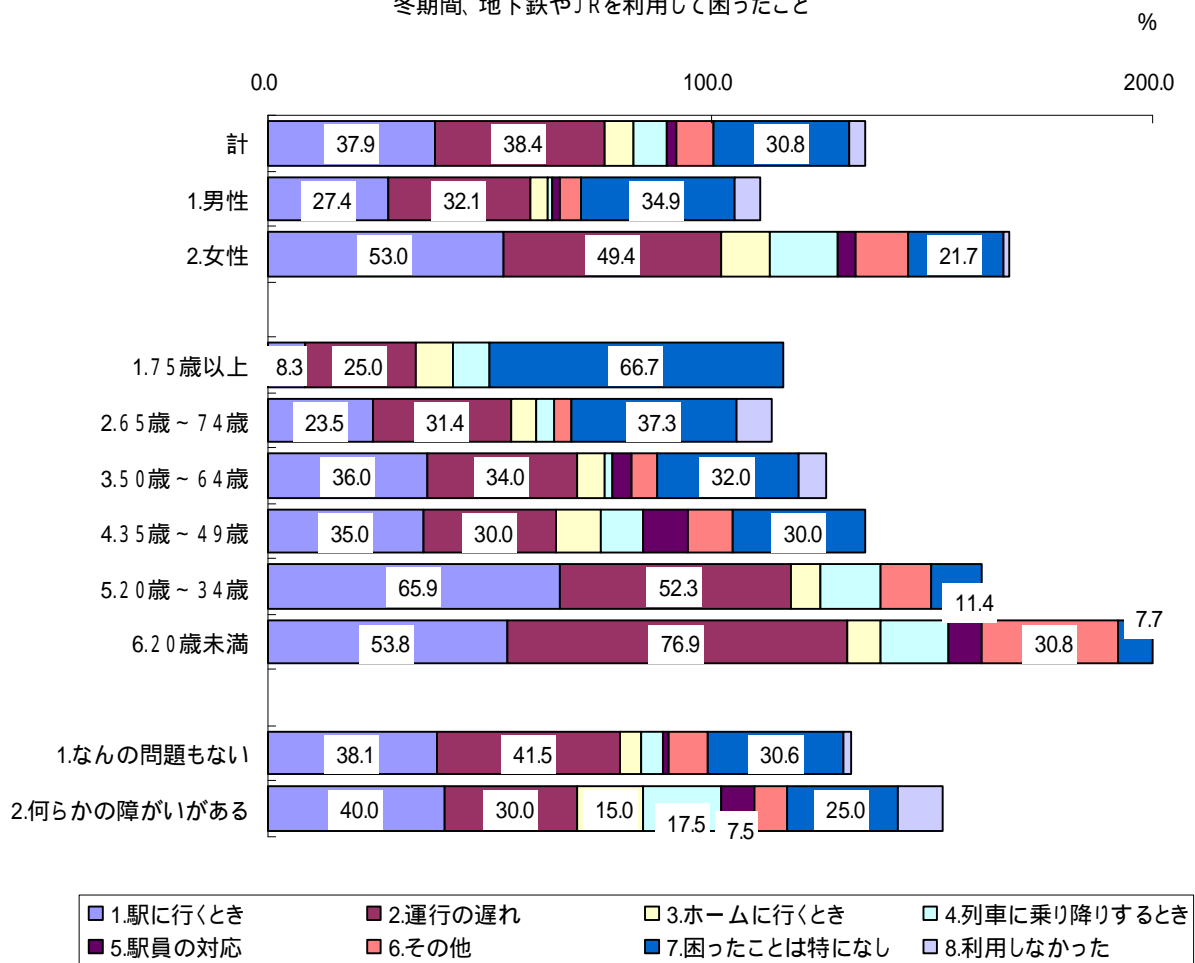
問3 冬期間、地下鉄やJRを利用して困ったことはありましたか。あてはまる番号にいくつでも\_をつけてください。



「冬期間、地下鉄やJRを利用して困ったこと」では、「2.運行の遅れ」(38.4%)と「1.駅に行くとき」(37.9%)が共に30%台と高いが、次に、「7.困ったことは特になし」が30.8%と約3割を占めている。他の回答割合は1割未満であり、「6.その他」(8.1%)、「4.列車に乗り降りするとき」(7.1%)、「3.ホームに行くとき」(6.6%)、「5.駅員の対応」(2.5%)などとなっている。

「冬期間、地下鉄やJRを利用して困ったこと」では、「2.運行の遅れ」(38.4%)と「1.駅に行くとき」(37.9%)である。

冬期間、地下鉄やJRを利用して困ったこと

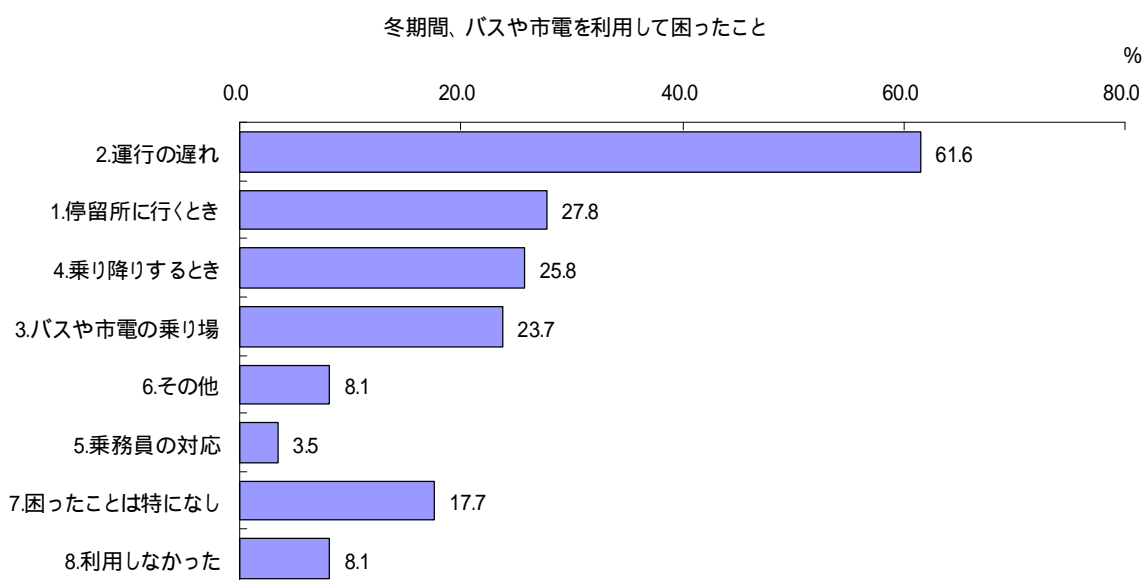


性別では、男性は「1. 駅に行くとき」(27.4%)、「2. 運行の遅れ」(32.1%)に回答が集まっており、いずれも「7. 困ったことは特になし」(34.9%)よりも低い割合である。女性は「1. 駅に行くとき」(53.0%)、「2. 運行の遅れ」(49.4%)にほぼ半数が回答しており、「7. 困ったことは特になし」(21.7%)の2倍以上の値になっている。

年齢別では、「1. 75歳以上」は「7. 困ったことは特になし」(66.7%)が最も高く、次に「2. 運行の遅れ」(25.0%)が続く。35歳から74歳の世代ではほぼ同様の傾向にあり、「1. 駅に行くとき」が30%前後、「2. 運行の遅れ」と「7. 困ったことは特になし」が30%台となっている。一方、34歳未満では「7. 困ったことは特になし」が10%前後と低く、「1. 駅に行くとき」と「2. 運行の遅れ」に対する回答割合は50%を超えている。ちなみに、若い世代の「6. その他」の内訳をみると「床が滑る。車内が暑い。」などが挙がっている。

「2. 何らかの障がいがある」と回答した人は「1. なんの問題もない」人よりも「3. ホームに行くとき」(15.0%)、「4. 列車に乗り降りするとき」(17.5%)、「5. 駅員の対応」(7.5%)などで割合がやや高くなっている。

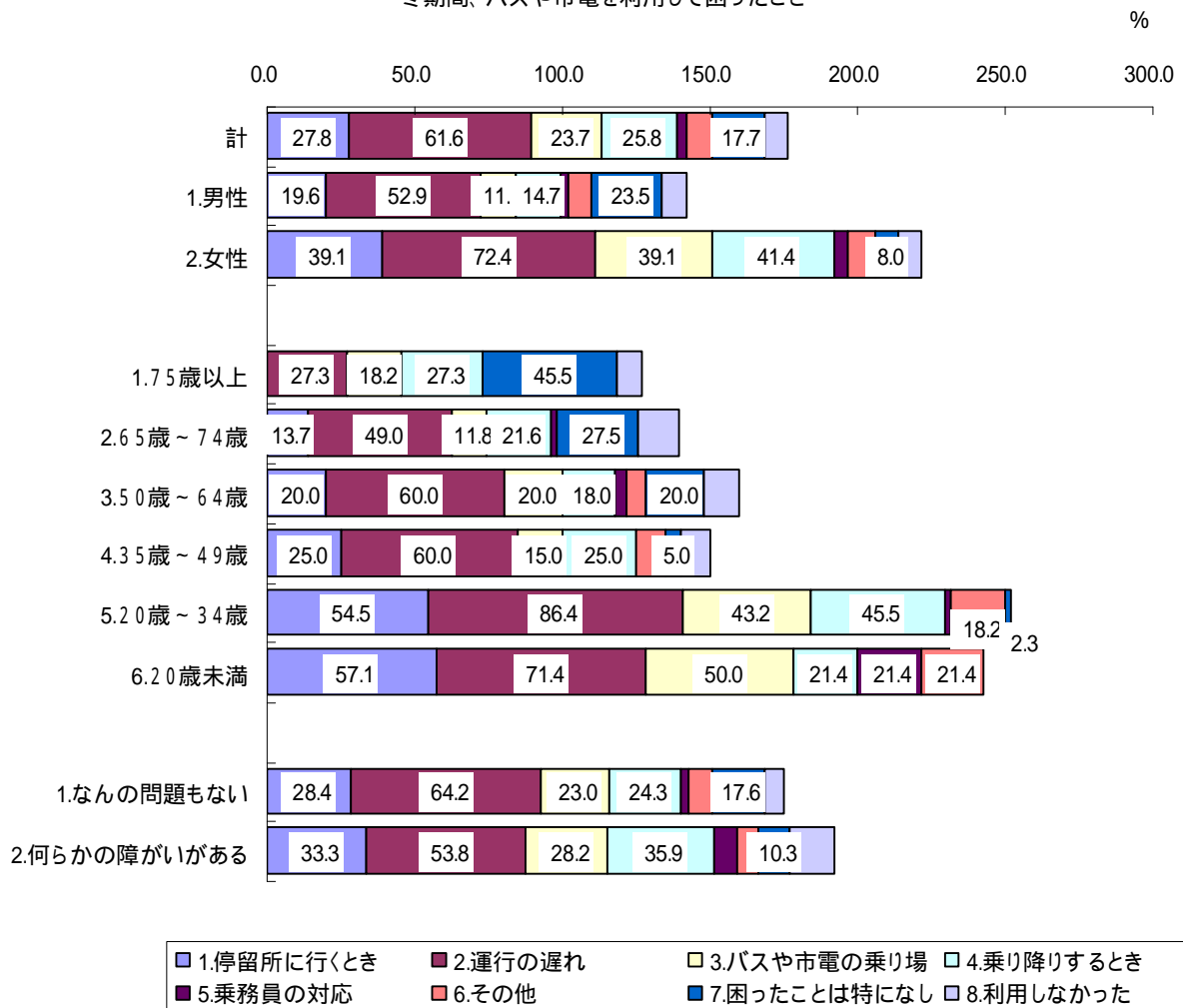
問4 冬期間、バスや市電を利用して困ったことはありましたか。あてはまる番号にいくつでもをつけてください。



「冬期間、バスや市電を利用して困ったこと」では、「2.運行の遅れ」が61.6%と6割を超える数値になっている。次いで、「1.停留所に行くとき」(27.8%)、「4.乗り降りするとき」(25.8%)、「3.バスや市電の乗り場」(23.7%)が2割台を占めて比較的高い数値になっており、「7.困ったことは特になし」(17.7%)は2割弱である。

「冬期間、バスや市電を利用して困ったこと」では、「2.運行の遅れ」が61.6%と最も高い。

冬期間、バスや市電を利用して困ったこと



性別では、「2. 運行の遅れ」が「1. 男性」(52.9%)、「2. 女性」(72.4%)と男女共に最も高い。また、女性は「1. 停留所に行くとき」(39.1%)、「3. バスや市電の乗り場」(39.1%)、「4. 乗り降りするとき」(41.4%)の3項目にも40%前後の高めの割合になっている。

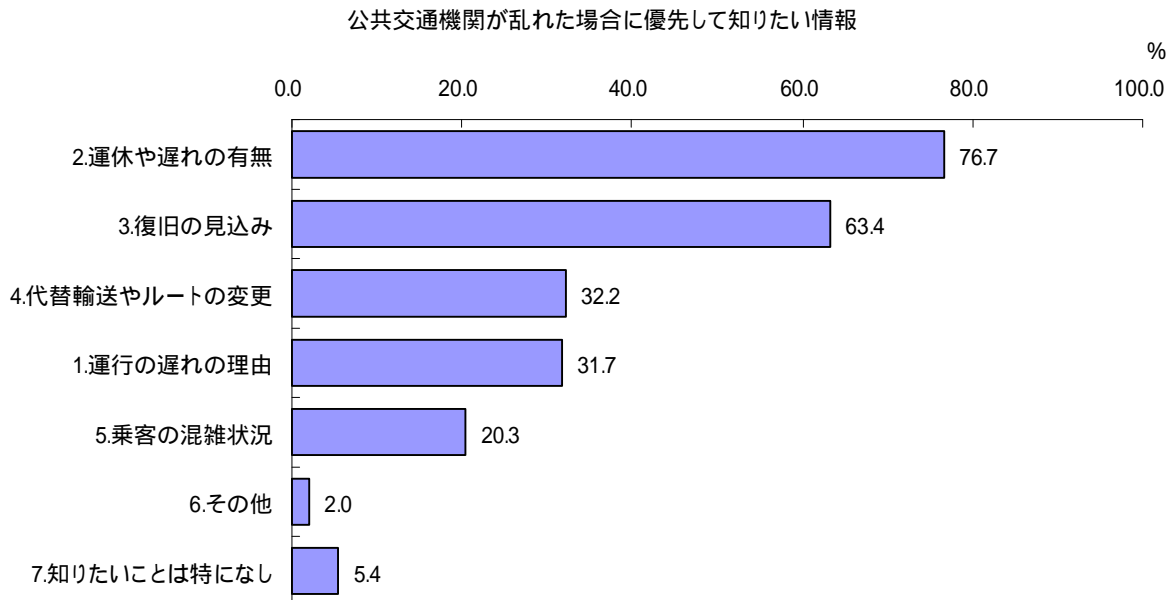
年齢別では、「2. 運行の遅れ」に対する回答割合がどの年代でも高い割合になっているが高齢になるにしたがって割合は低くなる傾向が見られる。「1. 停留所に行くとき」に対する割合も同様に高齢世代ほど低くなっており、その逆に「7. 困ったことは特になし」の割合が増加している。

また、34歳未満の世代では他の世代以上に「3. バスや市電の乗り場」への回答割合の高いことが特徴的であり、「5. 20歳～34歳」では「4. 乗り降りするとき」(45.5%)が高く、「6. 20歳未満」では「5. 乗務員の対応」(21.4%)が高いことも目立っている。

「2. 何らかの障がいがある」と回答した人は「1. なんの問題もない」人よりも「1. 停留所に行くとき」(33.3%)、「3. バスや市電の乗り場」(28.2%)、「4. 乗り降りするとき」(35.9%)などでやや割合が高くなっている。

## 大雪などへの対応

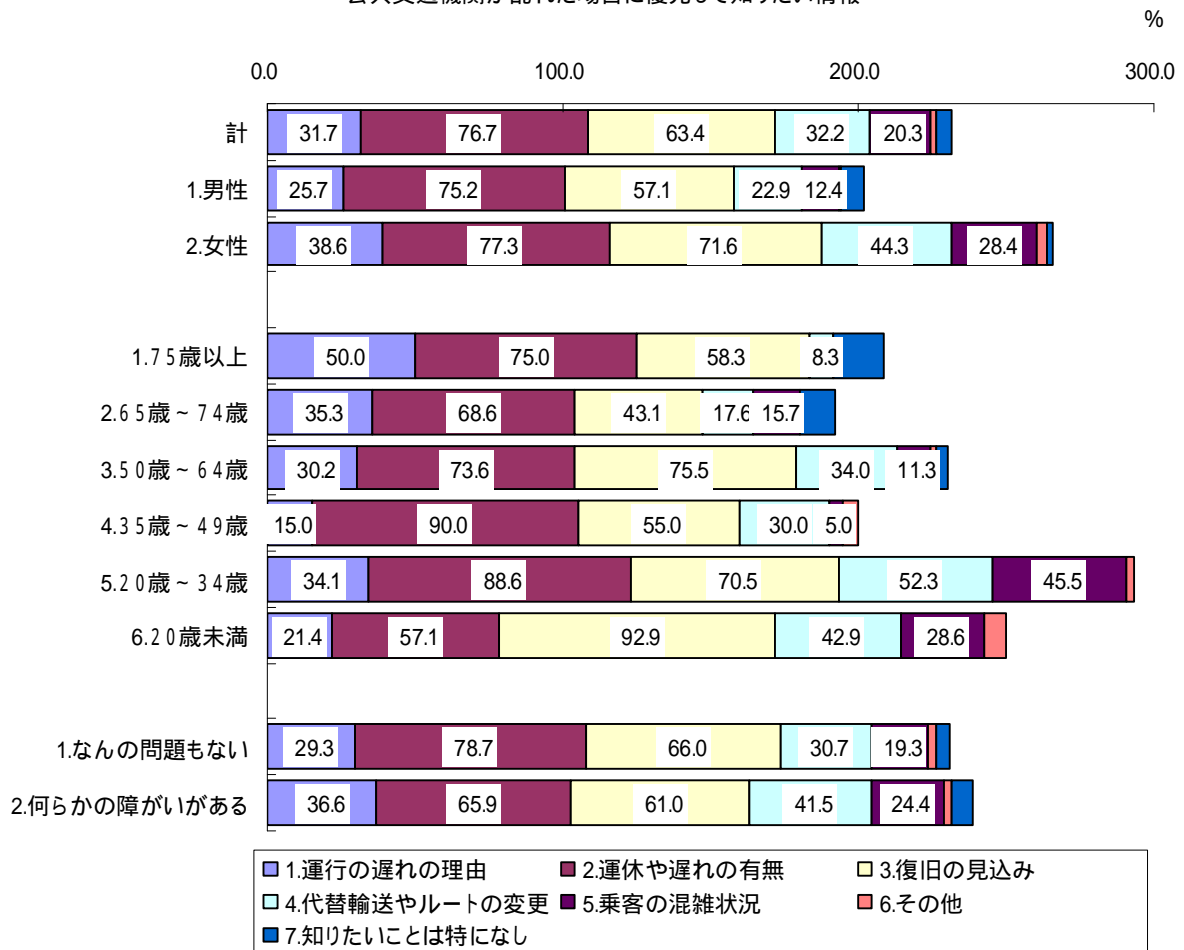
問5 大雪などにより公共交通機関の運行ダイヤが乱れることが予想されたとき、どのような情報を優先して知りたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも      をつけてください。



「大雪などにより公共交通機関の運行ダイヤが乱れることが予想されたときに優先して知りたい情報」では、「2.運休や遅れの有無」(76.7%)が最も高い割合を占めている。次に「3.復旧の見込み」(63.4%)が高くなっており、「4.代替輸送やルートの変更」(32.2%)、「1.運行の遅れの理由」(31.7%)も3割台を占めている。また、「5.乗客の混雑状況」(20.3%)も約2割を占めている。

「運行ダイヤが乱れたときに優先して知りたい情報」は、「2.運休や遅れの有無」(76.7%)、「3.復旧の見込み」(63.4%)である。

公共交通機関が乱れた場合に優先して知りたい情報



性別では、「2.運休や遅れの有無」については「1.男性」(75.2%)、「2.女性」(77.3%)とそれぞれ最も高い割合になっている。「1.運行の遅れの理由」、「3.復旧の見込み」については前者が男性25.7%、女性57.1%、後者が男性38.6%、女性71.6%と男性よりも女性の方が知りたい情報に挙げる割合が高くなっている。「4.代替輸送やルートの変更」(男性22.9%、女性44.3%)、「5.乗客の混雑状況」(男性12.4%、女性28.4%)にも同様の傾向がみられる。

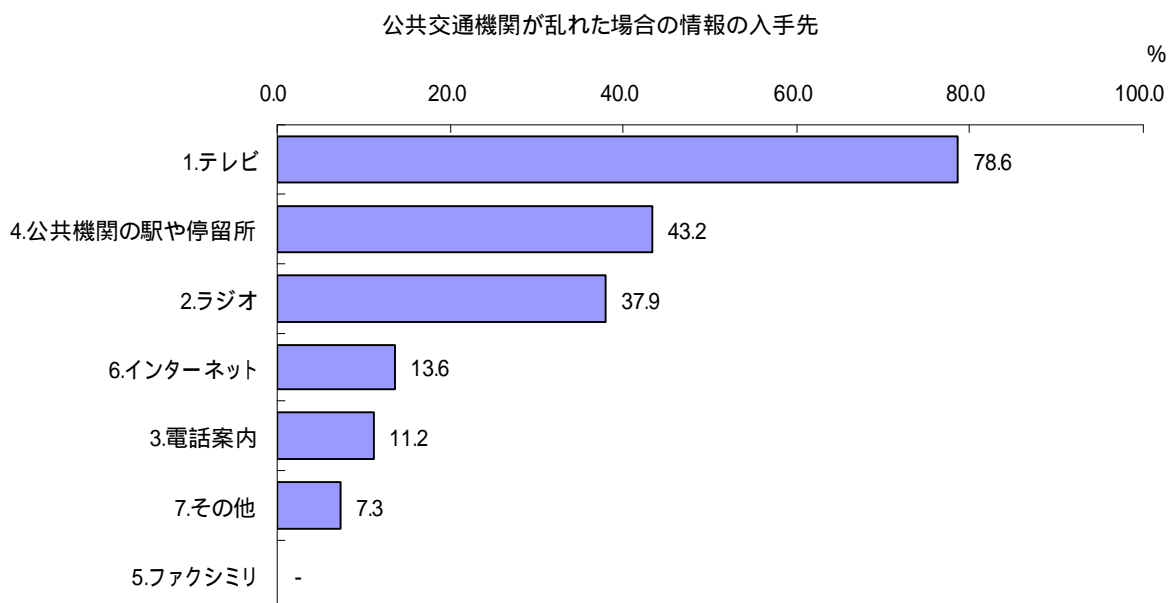
年齢別では、各世代で「2.運休や遅れの有無」が50%を超える高い割合を占めているが、「3.50歳~64歳」では「2.運休や遅れの有無」(73.6%)よりも「3.復旧の見込み」が75.5%とやや上回り、「6.20歳未満」では「2.運休や遅れの有無」(57.1%)よりも「3.復旧の見込み」が92.9%と大幅に上回っている。また、「5.20歳~34歳」、「6.20歳未満」では「4.代替輸送やルートの変更」に関心が強くそれぞれ52.3%、42.9%と他の年代と比べても8ポイント以上も高い。さらにこれら34歳以下の世代では「5.乗客の混雑状況」にも強い関心を寄せており、それぞれ45.5%、28.6%と高めの値になっている。

総じて言うと、34歳以下の世代ではきめ細かな情報を求める傾向があるようだ。

「2.何らかの障がいがある」と回答した人と「1.なんの問題もない」人では、「4.代替輸送やルートの変更」で、それぞれ30.7%、41.5%と10ポイント以上の差がある。理由は、「4.代替輸送やルートの変更」では車椅子の人が利用できるかどうかの問題であると回答している。



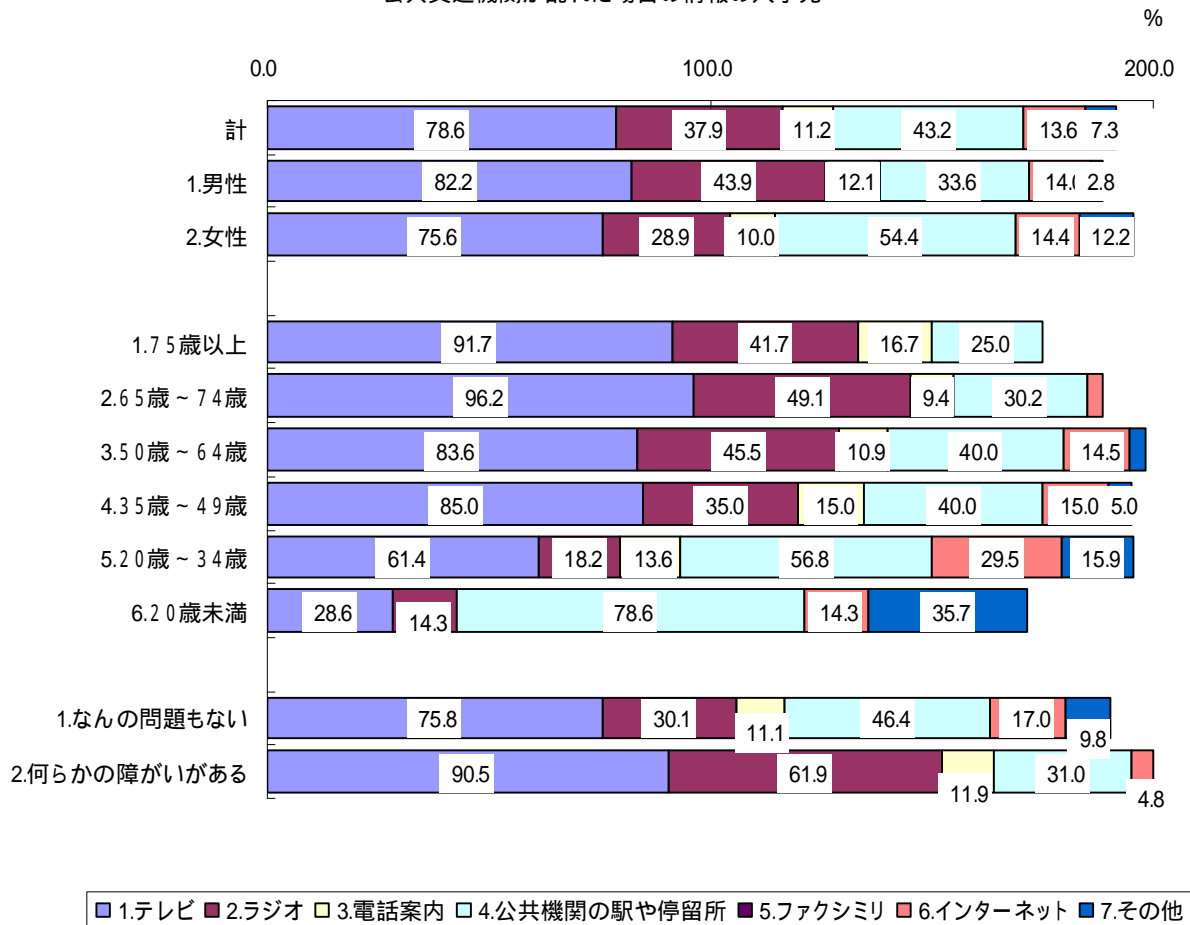
問6 問5のような情報は、何から入手しますか。あてはまる番号にいくつでもをつけてください。



「公共交通機関が乱れた場合の情報は、何から入手しますか。」との問に対して、「1.テレビ」が78.6%と最も高い割合になっている。以下、「4.公共機関の駅や停留所」(43.2%)、「2.ラジオ」(37.9%)、「6.インターネット」(13.6%)、「3.電話案内」(11.2%)、「7.その他」(7.3%)と続き、「5.ファクシミリ」は0%であった。「7.その他」の内訳では携帯電話という回答が多くなっている。

「運行ダイヤが乱れた場合の情報の入手」は、「1.テレビ」が78.6%と最も高い。

公共交通機関が乱れた場合の情報の入手先



性別では、男女共に「1.テレビ」と挙げる回答が最も高く、「1.男性」（82.2%）、「2.女性」（75.6%）を占めている。

「2.ラジオ」では、男性が43.9%に対して女性は28.9%と男性が15ポイント高く、逆に、「4.公共機関の駅や停留所」では男性が33.6%、女性が54.4%と20ポイント以上も女性の方が高くなっている。

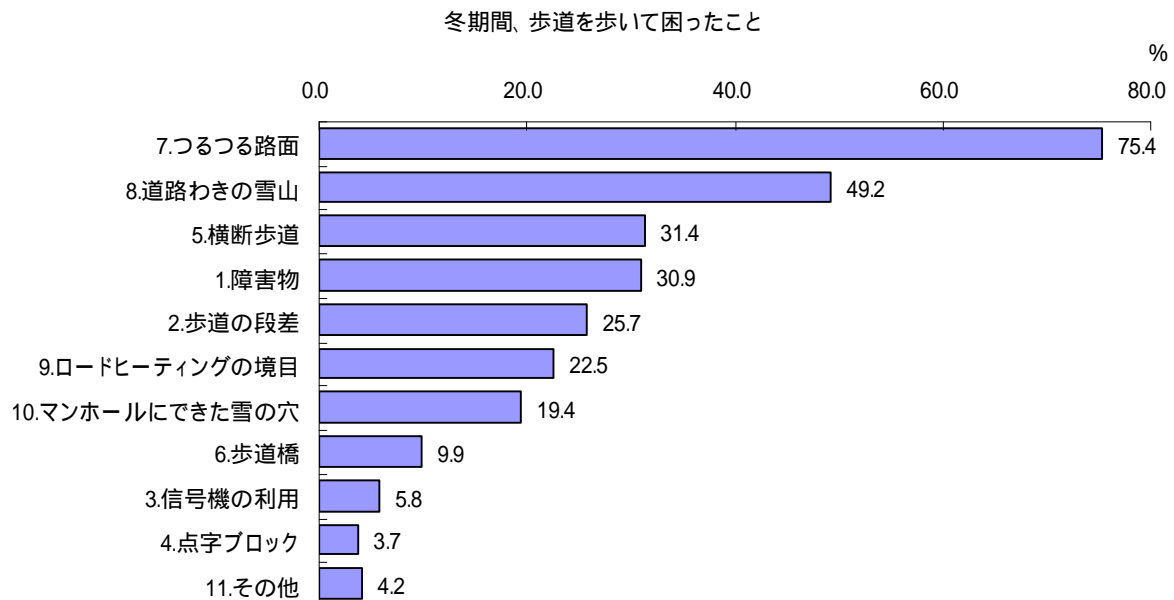
年齢別では、「1.テレビ」を挙げる回答が35歳以上の世代では80%以上の高い割合を占めるが、「5.20歳～34歳」（61.4%）、「6.20歳未満」（28.6%）と年代が下がるにしたがって割合は低くなっていく。一方、「4.公共機関の駅や停留所」への回答は35歳以上の世代では40%以下であるが、34歳以下の世代では「5.20歳～34歳」（56.8%）、「6.20歳未満」（78.6%）と若い世代ほど高くなっている。

「6.インターネット」は「5.20歳～34歳」が29.5%と各世代の中で最も高い数値になっている。「6.20歳未満」の「7.その他」への回答内容が携帯電話の多いことを考えると「6.20歳未満」でも「6.インターネット」の利用が浸透しており、若い世代ほど「6.インターネット」を利用している傾向をうかがわせている。

「2.何らかの障がいがある」人は「1.なんの問題もない」人よりも「1.テレビ」で75.8%を上回る90.5%の高い割合を占めている。また、「2.ラジオ」では「1.なんの問題もない」（30.1%）に対して、「2.何らかの障がいがある」人は2倍以上の61.9%を占める結果になっている。

## 歩道の通行

問7 冬期間、歩道を歩いて困ったことはありましたか。あてはまる番号にいくつでもをつけてください。また、何に困りましたか。カッコの中に具体的に書いてください。



「冬期間、歩道を歩いて困ったこと」では、「7. つるつる路面」(75.4%)を上げる割合が最も高く、次に、「8. 道路わきの雪山」(49.2%)が高い。以下、「5. 横断歩道」(31.4%)、「1. 障害物」(30.9%)、「2. 歩道の段差」(25.7%)、「9. ロードヒーティングの境目」(22.5%)、「10. マンホールにできた雪の穴」(19.4%)、「6. 歩道橋」(9.9%)、「3. 信号機の利用」(5.8%)、「4. 点字ブロック」(3.7%)、「11. その他」(4.2%)と続く。

具体的な回答を見ると「横断歩道が滑る」、「横断歩道の白線が滑る」、「歩道橋の階段が滑る」、「段差で滑る」など「滑る」という内容が多く、次に「雪山で見えない」などへの回答が多くなっている。

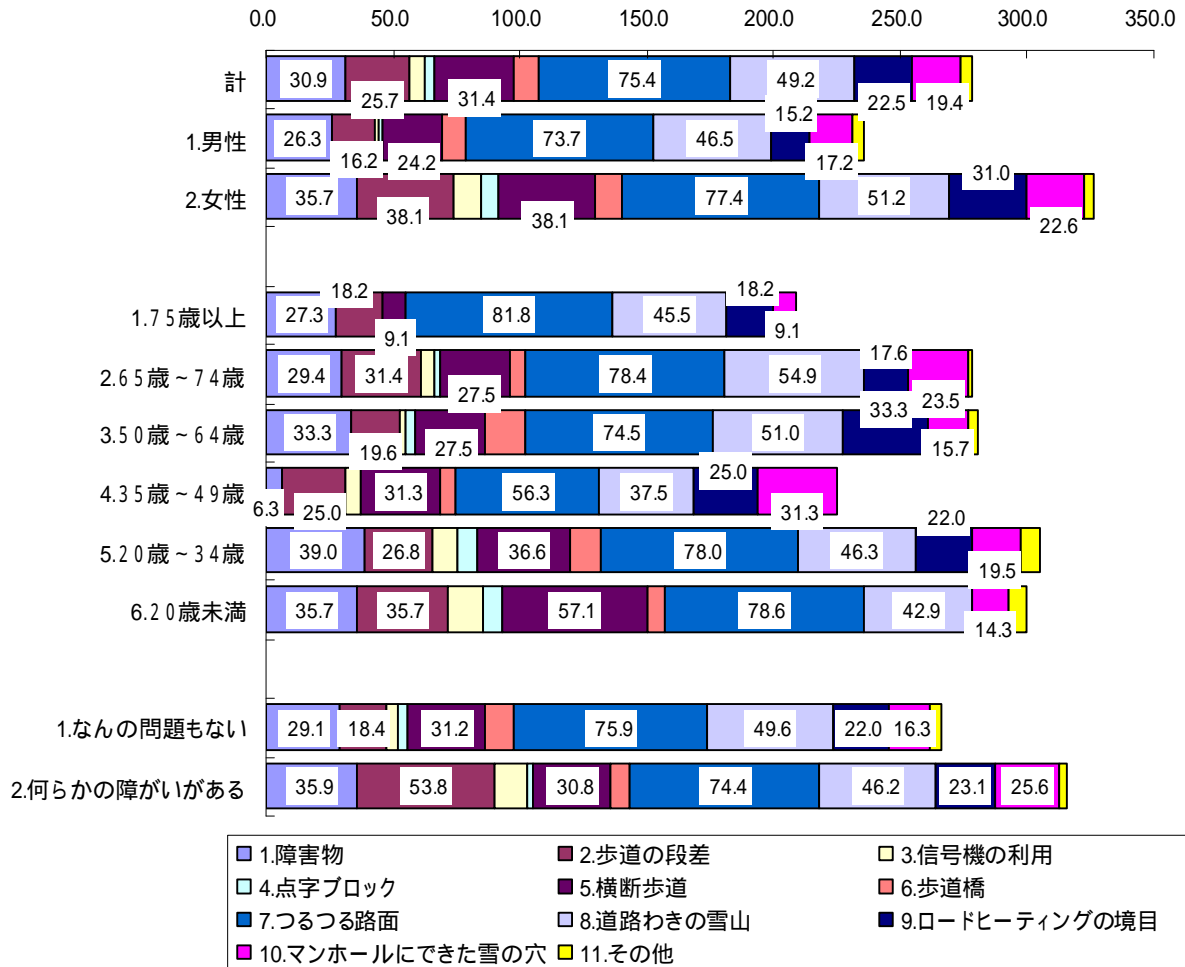
段差の具体的な例として挙げられている内容の中には、「歩道と車道の段差」、また、「ロードヒーティングしている歩道と、していない歩道との段差」、「ロードヒーティングしている車道と、していない車道との段差」などが多くなっている。

加えて、「ボタン式信号機では、雪山があるため車椅子ではボタンまで近づけない」、「歩道と車道との段差が大きいため車の乗り降りができない」などという回答も見られた。

「冬期間、歩道を歩いて困ったこと」では、「7. つるつる路面」(75.4%)、次に、「8. 道路わきの雪山」(49.2%)の割合が高い。

冬期間、歩道を歩いて困ったこと

%



性別では、男性は「7.つつる路面」(73.7%)、「8.道路わきの雪山」(46.5%)の2項目の割合が高く、他の項目は30%に達していない。女性は、男性と同様に「7.つつる路面」(77.4%)、「8.道路わきの雪山」(51.2%)の2項目で高い割合を示しており、また、「2.歩道の段差」(38.1%)、「5.横断歩道」(38.1%)、「1.障害物」(35.7%)、「9.ロードヒーティングの境目」(31.0%)の4項目でも30%以上の割合になっている。

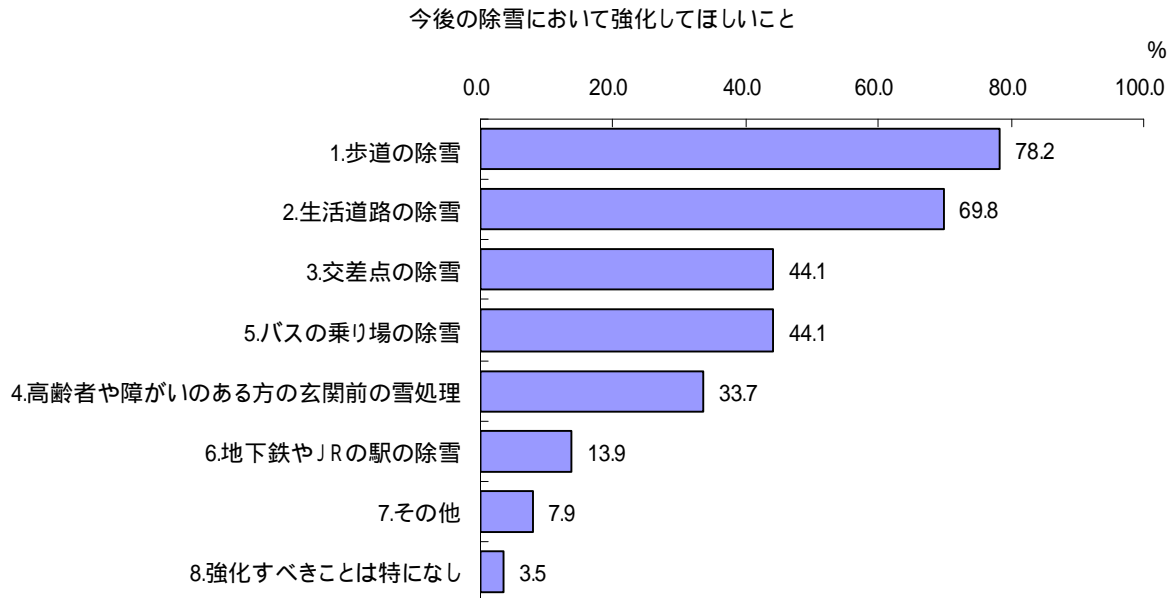
年齢別でみると、「7.つつる路面」は各年代で第1位を占めているが、「8.道路わきの雪山」は「6.20歳未満」を除く各世代で第2位に位置している。「6.20歳未満」では第2位に「5.横断歩道」(57.1%)が位置し、「8.道路わきの雪山」(42.9%)は第3位である。

30%以上を獲得している項目に限ってみると、「2.65歳～74歳」では「2.歩道の段差」(31.4%)、「3.50歳～64歳」では「1.障害物」(33.3%)と「9.ロードヒーティングの境目」(33.3%)、「4.35歳～49歳」では「5.横断歩道」(31.3%)と「10.マンホールにできた雪の穴」(31.3%)、「5.20歳～34歳」では「1.障害物」(39.0%)と「5.横断歩道」(36.6%)、「6.20歳未満」では「1.障害物」(35.7%)となっており、「1.障害物」と「5.横断歩道」が多く挙げられていることが分かる。

「2.歩道の段差」で、「2.何らかの障がいがある」人は「1.なんの問題もない」人よりも35.4ポイントも高く、「9.ロードヒーティングの境目」でも9.3ポイントの差がみられる。

## 除雪

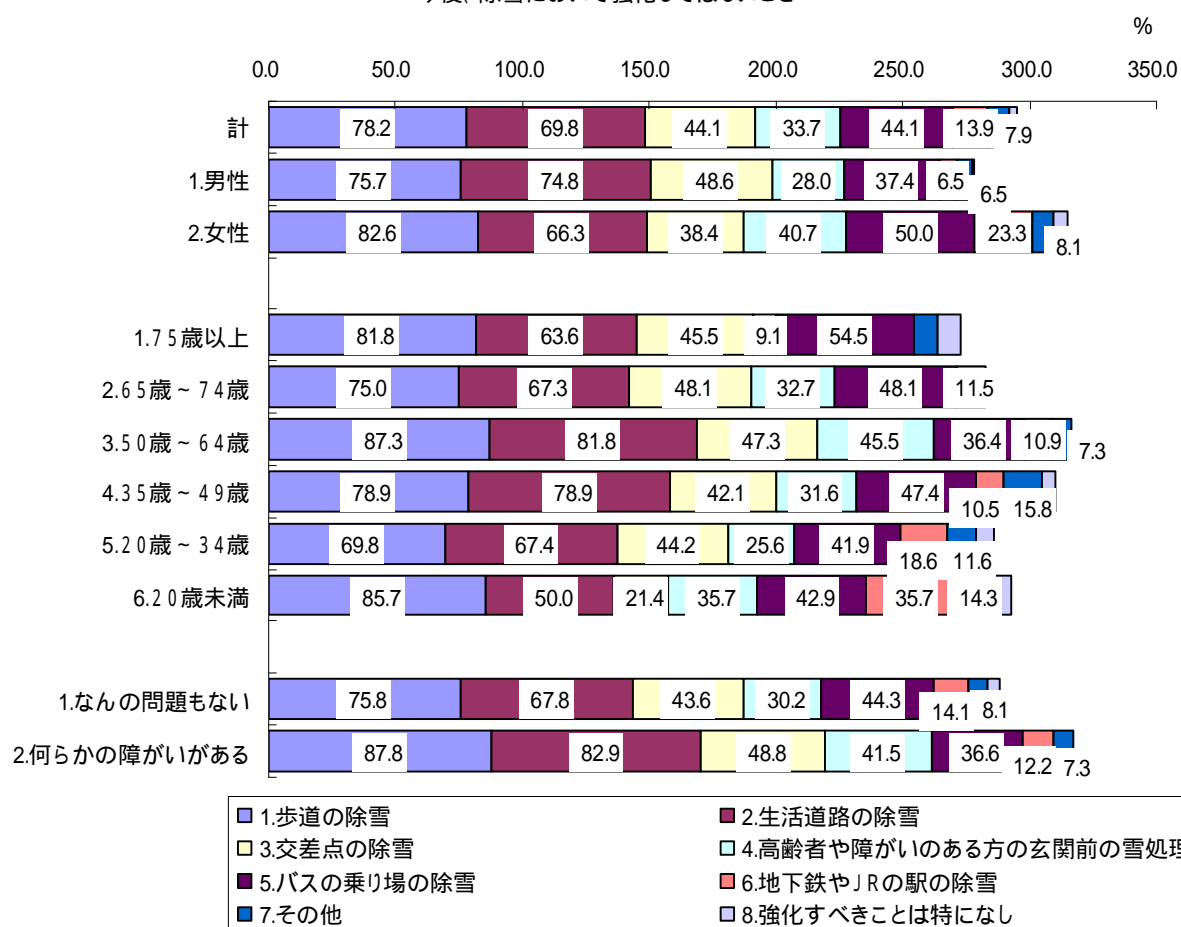
問8 今後の除雪において、強化してほしいことはありますか。あてはまる番号にいくつでも\_をつけてください。



「今後の除雪において、強化してほしいこと」としては、「1.歩道の除雪」(78.2%)、「2.生活道路の除雪」(69.8%)の2項目への回答割合が高くなっており、以下、「3.交差点の除雪」(44.1%)、「5.バスの乗り場の除雪」(44.1%)、「4.高齢者や障がいのある方の玄関前の雪処理」(33.7%)、「6.地下鉄やJRの駅の除雪」(13.9%)、「7.その他」(7.9%)と続いている。「8.強化すべきことは特になし」という回答はわずか3.5%である。

「今後の除雪において、強化してほしいこと」は、「1.歩道の除雪」(78.2%)と「2.生活道路の除雪」(69.8%)である。

今後、除雪において強化してほしいこと



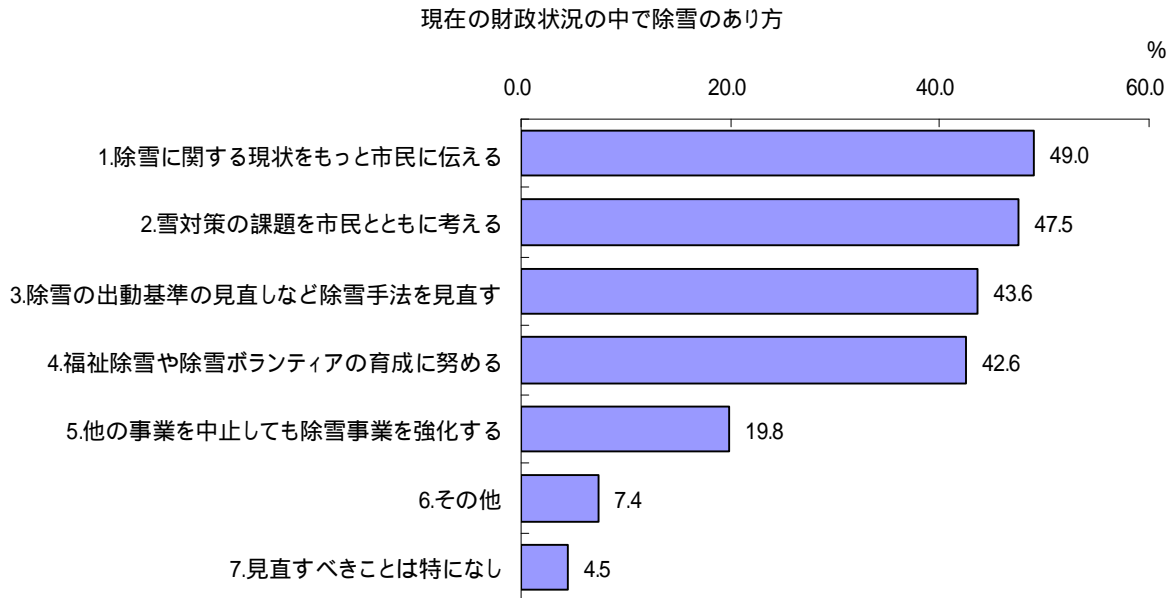
性別では、男女共に「1.歩道の除雪」と「2.生活道路の除雪」が1位と2位を占めており、それぞれの割合は6割を超えている。以下、男性は「3.交差点の除雪」(48.6%)、「5.バスの乗り場の除雪」(37.4%)、「4.高齢者や障がいのある方の玄関前の雪処理」(28.0%)と続くが、女性は「5.バスの乗り場の除雪」(50.0%)、「4.高齢者や障がいのある方の玄関前の雪処理」(40.7%)、「3.交差点の除雪」(38.4%)、「6.地下鉄やJRの駅の除雪」(23.3%)の順になっている。

年齢別でみると、各年代で「1.歩道の除雪」と「2.生活道路の除雪」が1位と2位を占めている。

40%を超えている項目を拾ってみると、「2.65歳～74歳」の「3.交差点の除雪」(48.1%)と「5.バスの乗り場の除雪」(48.1%)、「3.50歳～64歳」の「3.交差点の除雪」(47.3%)と「4.高齢者や障がいのある方の玄関前の雪処理」(45.5%)、「4.35歳～49歳」の「5.バスの乗り場の除雪」(47.4%)と「3.交差点の除雪」(42.1%)、「5.20歳～34歳」の「3.交差点の除雪」(44.2%)と「5.バスの乗り場の除雪」(41.9%)、「6.20歳未満」の「5.バスの乗り場の除雪」(42.9%)など、「3.交差点の除雪」と「5.バスの乗り場の除雪」が多く挙がっている。

「1.なんの問題もない」人と「2.何らかの障がいがある」人では「2.生活道路の除雪」でそれぞれ67.8%、82.9%となっており、15.1ポイントの差がみられる。

問9 現在の財政状況の中で除雪のあり方は、どうあるべきですか。あてはまる番号にいくつでも\_をつけてください。



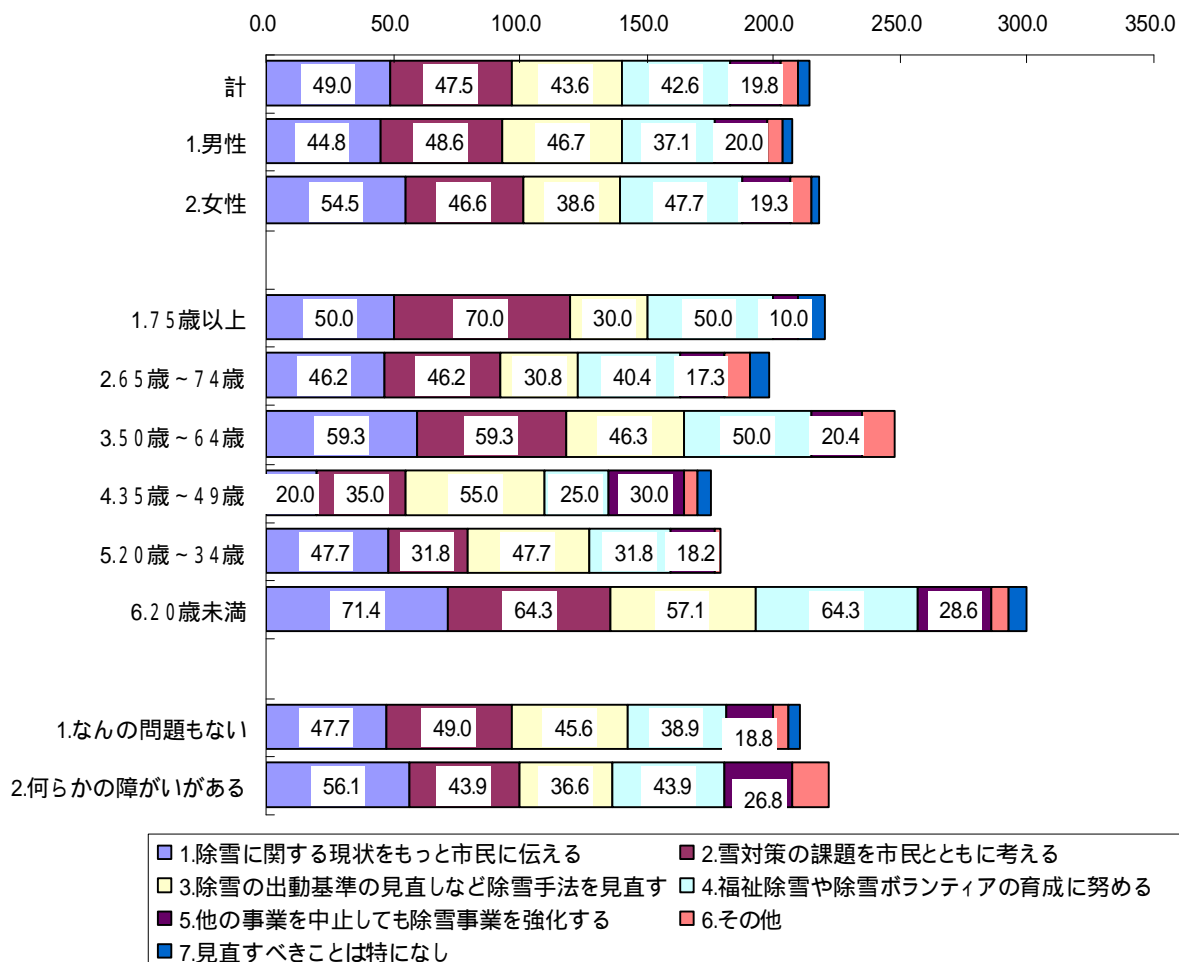
「現在の財政状況の中で除雪のあり方」を聞いたところ、「1. 除雪に関する現状をもっと市民に伝える」(49.0%)、「2. 雪対策の課題を市民とともに考える」(47.5%)、「3. 除雪の出動基準の見直しなど除雪手法を見直す」(43.6%)、「4. 福祉除雪や除雪ボランティアの育成に努める」(42.6%)の4項目で4割以上を占めている。

前問で「1. 歩道の除雪」(78.2%)、「2. 生活道路の除雪」(69.8%)が7割前後の高い割合を占めているにもかかわらず、「5. 他の事業を中止しても除雪事業を強化する」(19.8%)への割合が2割未満に止まっており、市民の財政状況への配慮をうかがわせる結果になっている。

「現在の財政状況の中で除雪のあり方」は、「1. 除雪に関する現状をもっと市民に伝える」(49.0%)、「2. 雪対策の課題を市民とともに考える」(47.5%)、「3. 除雪の出動基準の見直しなど除雪手法を見直す」(43.6%)、「4. 福祉除雪や除雪ボランティアの育成に努める」(42.6%)の4項目で4割以上を占めている。

現在の財政状況の中で除雪のあり方

%



性別にみると、40%以上の割合を確保している項目に注目して、男性は「1.除雪に関する現状をもっと市民に伝える」(44.8%)、「2.雪対策の課題を市民とともに考える」(48.6%)、「3.除雪の出動基準の見直しなど除雪手法を見直す」(46.7%)の3項目であるが、女性は「1.除雪に関する現状をもっと市民に伝える」(54.5%)、「2.雪対策の課題を市民とともに考える」(46.6%)、「4.福祉除雪や除雪ボランティアの育成に努める」(47.7%)の3項目である。

年齢別に高い割合を獲得している項目をみることにする。

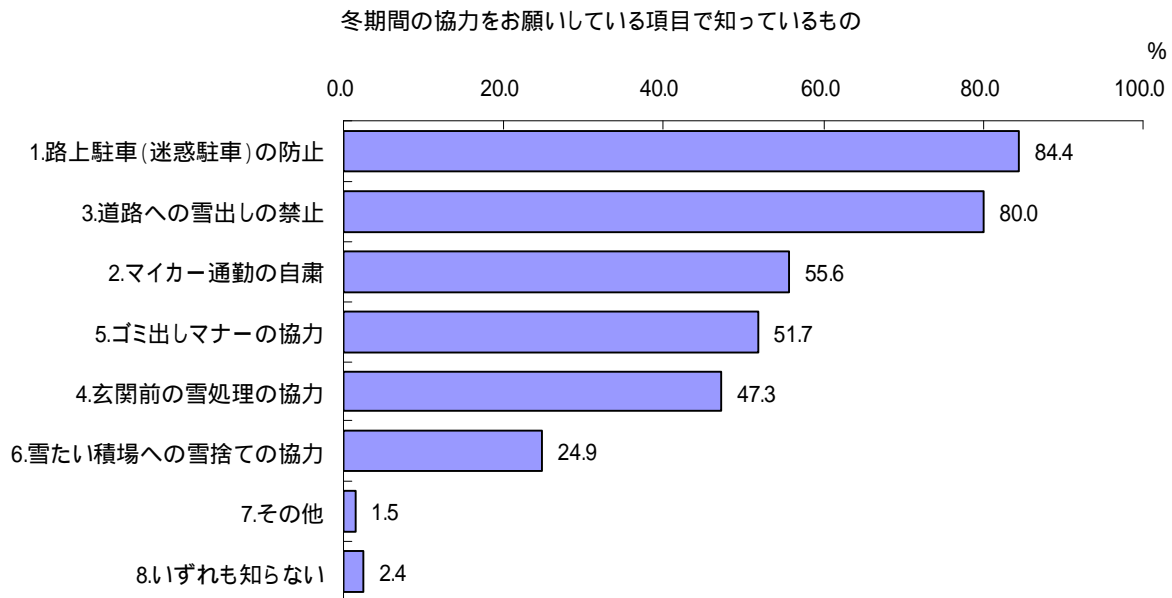
最も高い割合を占めた項目は、「6.20歳未満」の「1.除雪に関する現状をもっと市民に伝える」(71.4%)であり、次いで「1.75歳以上」の「2.雪対策の課題を市民とともに考える」(70.0%)である。また、60%以上の項目は、「6.20歳未満」の「2.雪対策の課題を市民とともに考える」(64.3%)と同じく「6.20歳未満」の「4.福祉除雪や除雪ボランティアの育成に努める」(64.3%)の2項目である。「6.20歳未満」の年代の高い回答割合が目立っている。

「1.なんの問題もない」と「2.何らかの障がいがある」との間にはそれほど大きな差はみられないが、あえて言うと、「1.除雪に関する現状をもっと市民に伝える」では前者よりも後者が8.4ポイント高くなっている。



## 冬期間の市民の協力

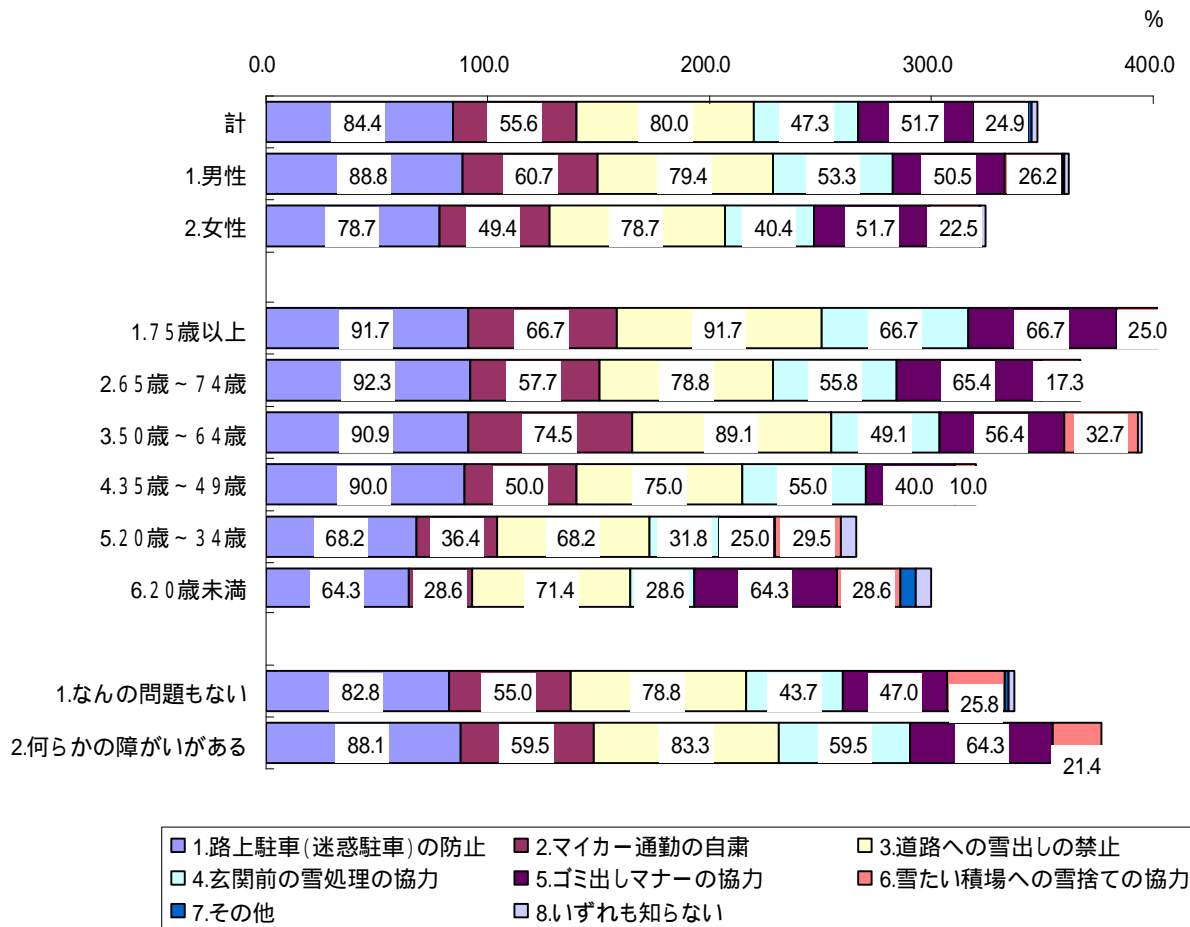
問 10 札幌は世界でもっとも雪が多い大都市だといわれていますが、冬期間のスムーズな生活には、市民のみなさんの協力が欠かせません。協力をお願いしている項目のなかから、知っているものいくつかを付けてください。



「市民のみなさんの協力をお願いしている項目のなかから、知っているもの」では、「1.路上駐車(迷惑駐車)の防止」(84.4%)、「3.道路への雪出しの禁止」(80.0%)の2項目では8割を超える高い割合になっている。次に、「2.マイカー通勤の自粛」(55.6%)、「5.ゴミ出しマナーの協力」(51.7%)、「4.玄関前の雪処理の協力」(47.3%)の3項目で5割前後の比較的高い割合を占めているが、まだ、広報の余地が残る結果になっている。「6.雪たい積場への雪捨での協力」は24.9%と6項目の中では最も低い割合になっている。

「市民のみなさんの協力をお願いしている項目のなかから、知っているもの」では、「1.路上駐車(迷惑駐車)の防止」(84.4%)、「3.道路への雪出しの禁止」(80.0%)の2項目が高い割合を占めている。

冬期間の協力をお願いしている項目で知っているもの



性別では、男性、女性共に「1.路上駐車（迷惑駐車）の防止」、「3.道路への雪出しの禁止」の2項目の割合が高く、それぞれ80%前後を獲得している。

男性の3位は「2.マイカー通勤の自粛」(60.7%)であり、女性は「5.ゴミ出しマナーの協力」(51.7%)の割合が高い。

年齢別にみると、35歳以上の世代では「1.路上駐車（迷惑駐車）の防止」が90%以上の割合を確保しているが、34歳以下の世代は「5.20歳～34歳」(68.2%)、「6.20歳未満」(64.3%)と60%台に止まっている。

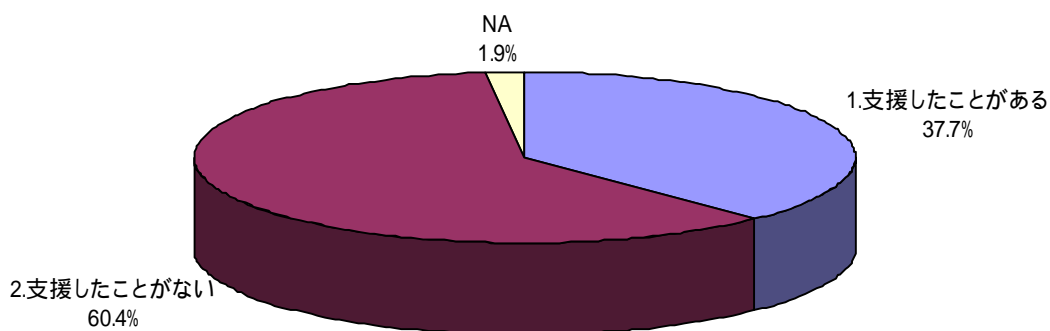
34歳以下の世代では「3.道路への雪出しの禁止」が「1.路上駐車（迷惑駐車）の防止」以上の回答を集めており、それぞれ「5.20歳～34歳」(68.2%)、「6.20歳未満」(71.4%)となっている。

「2.マイカー通勤の自粛」と「4.玄関前の雪処理の協力」では高齢になるほど回答割合が高くなる傾向にあり、「5.ゴミ出しマナーの協力」は20歳から49歳の世代以外は60%台を獲得している。

「4.玄関前の雪処理の協力」では、「1.なんの問題もない」(43.7%)と「2.何らかの障がいがある」(59.5%)とでは、15.8ポイントも高く、「5.ゴミ出しマナーの協力」でも「1.なんの問題もない」(47.0%)、「2.何らかの障がいがある」(64.3%)と17.3ポイントの差がみられる。

問 11 あなたは、これまで高齢者や障がいのある方などに対して、除排雪や安全確認などの支援をしたことがありますか。あてはまる番号のどちらか一つに    をつけてください。

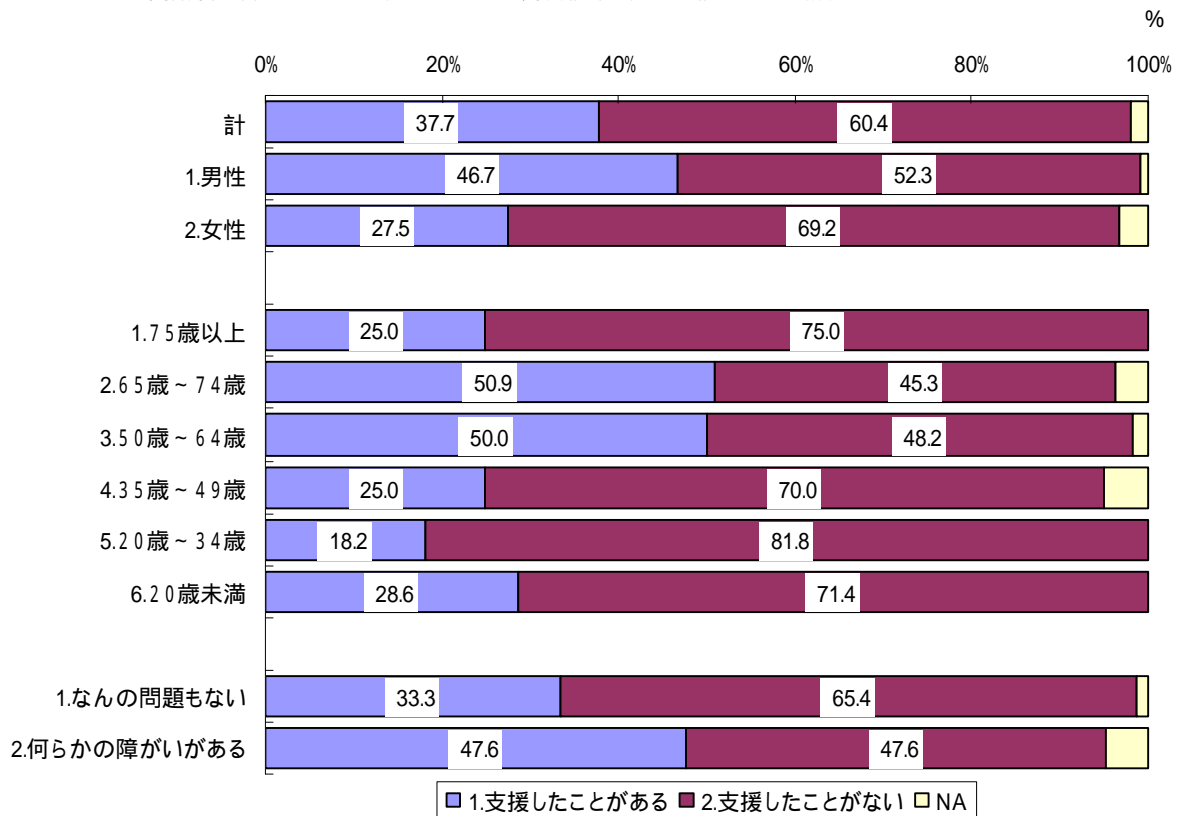
高齢者や障がいのある方などに対して、除排雪や安全確認などの支援をしたことがありますか



「高齢者や障がいのある方などに対して、除排雪や安全確認などの支援をしたことがありますか」と聞いたところ、「1. 支援したことがある」は4割弱の37.7%に止まり、「2. 支援したことがない」(60.4%)が6割を占める結果になっている。

「高齢者や障がいのある方などに対して、除排雪や安全確認など」を「1. 支援したことがある」割合は4割弱(37.7%)である。

高齢者や障がいのある方などに対して、除排雪や安全確認などの支援をしたことがありますか

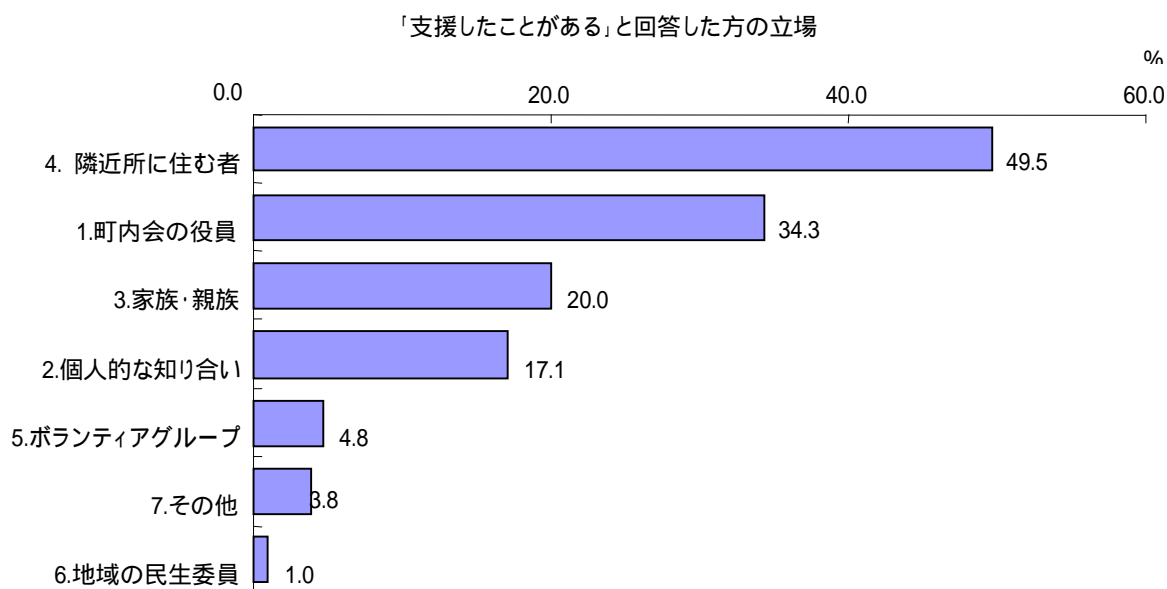


性別で見ると、「1.支援したことがある」割合は、「2.女性」(27.5%)に対して「1.男性」(46.7%)と男性の方が高い。

年齢別では、「1.支援したことがある」と回答した割合が「2.65歳～74歳」(50.9%)、「3.50歳～64歳」(50.0%)の世代で50%以上を獲得している。

また、「1.なんの問題もない」人は、「1.支援したことがある」(33.3%)に対して、「2.何らかの障がいがある」人の割合は「1.支援したことがある」(47.6%)と高い割合を占めている。

問 12 問 11 で「支援したことがある」と回答した方におたずねします。あなたは、どんな立場で支援しましたか。あてはまる番号にいくつでも をつけてください。

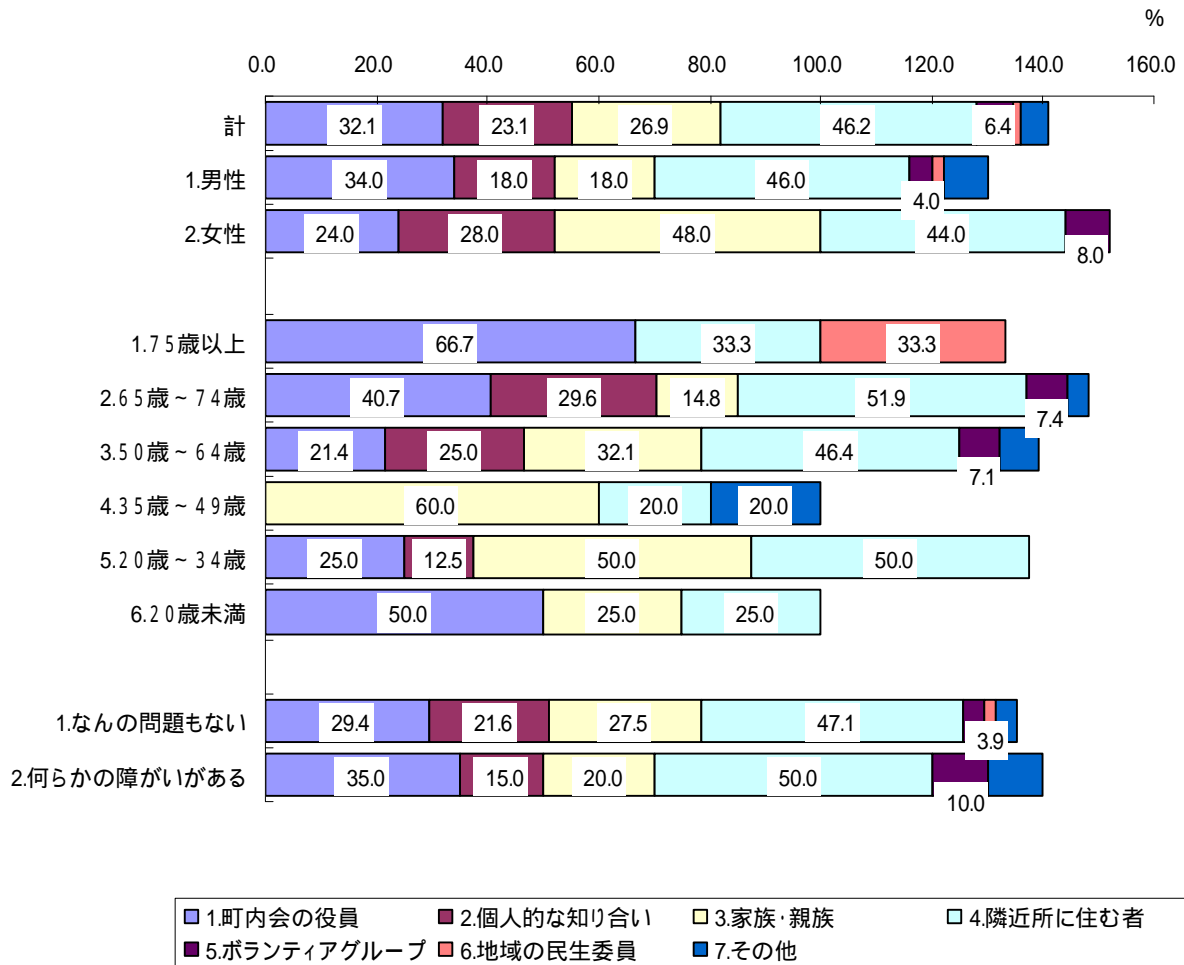


問 11 で「支援したことがある」と回答した方に「どんな立場で支援しましたか」と聞いたところ、「4. 隣近所に住む者」(49.5%)、「1. 町内会の役員」(34.3%)、「3. 家族・親族」(20.0%)、「2. 個人的な知り合い」(17.1%)、「5. ボランティアグループ」(4.8%)、「7. その他」(3.8%)、「6. 地域の民生委員」(1.0%)の順に高くなっている。

家族、親族、知人よりも隣近所、町内会など地域内での「立場」の割合が高い傾向が見られる。

「支援したことがある人の立場は、「4. 隣近所に住む者」(49.5%)、「1. 町内会の役員」(34.3%)の割合が高い。

「支援したことがある」と回答した方の立場



性別で、40%以上の割合になっている項目は、男性の「4.隣近所に住む者」（46.0%）と女性の「3.家族・親族」（48.0%）、「4.隣近所に住む者」（44.0%）である。男女共に「5.ボランティアグループ」の割合はそれぞれ4.0%、8.0%と低い。

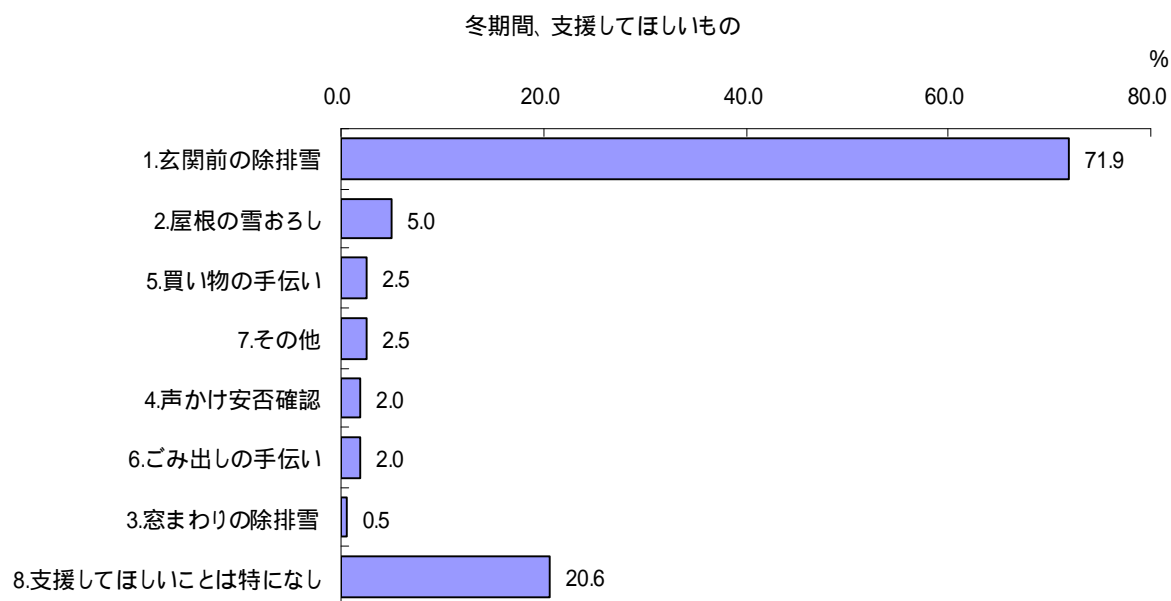
年齢別には、「1.75歳以上」は「1.町内会の役員」（66.7%）という立場が高く、「2.65歳～74歳」（51.9%）、「3.50歳～64歳」（46.4%）では「4.隣近所に住む者」が高い割合を占める。

「4.35歳～49歳」では「3.家族・親族」（60.0%）、「5.20歳～34歳」では「3.家族・親族」（50.0%）と「4.隣近所に住む者」（50.0%）、「6.20歳未満」は「1.町内会の役員」（50.0%）など、世代間にバラツキがある。

また、「5.ボランティアグループ」に回答を寄せた年代は、「2.65歳～74歳」（7.4%）と「3.50歳～64歳」（7.1%）である。

「1.なんの問題もない」人と「2.何らかの障がいがある」人との回答をみると支援したときの立場には大きな差はないようである。

問 13 冬期間、あなたが支援してほしいものは何ですか。あてはまる番号にいくつでもつけてください。

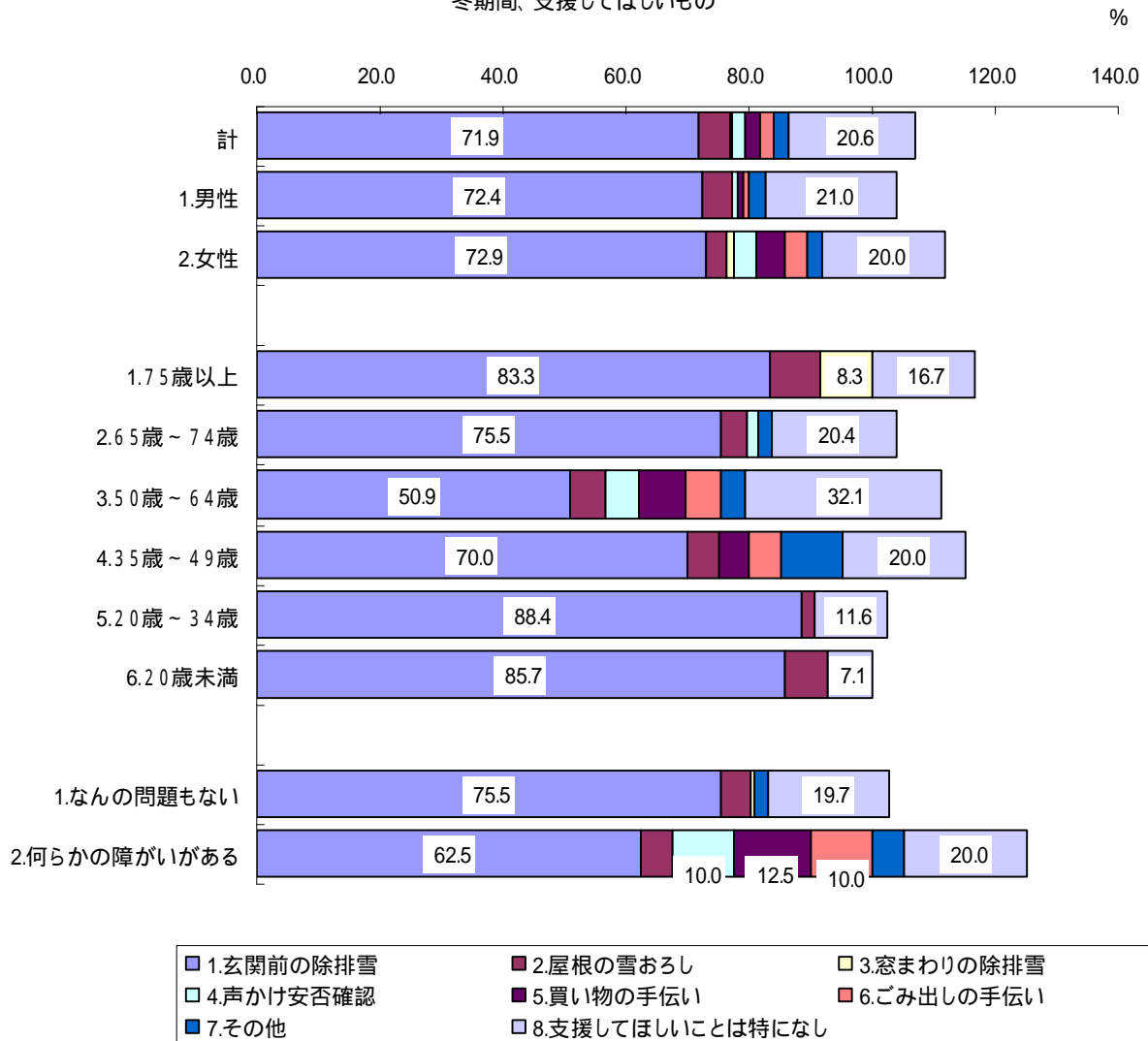


「冬期間、あなたが支援してほしいもの」を聞いたところ、「1. 玄関前の除排雪」が71.9%と他を圧倒して高い割合を占めている。以下の回答は5%以下に止まり、「2. 屋根の雪おろし」(5.0%)、「5. 買い物の手伝い」(2.5%)、「7. その他」(2.5%)、「4. 声かけ安否確認」(2.0%)、「6. ごみ出しの手伝い」(2.0%)、「3. 窓まわりの除排雪」(0.5%)などとなっている。

また、「8. 支援してほしいことは特になし」(20.6%)は約2割を占めている。

「冬期間、支援してほしいもの」は、「1. 玄関前の除排雪」(71.9%)が圧倒的に高い割合を占める。

冬期間、支援してほしいもの



性別では、男性、女性共に「1. 玄関前の除排雪」の割合が最も高く、それぞれ 72.4%、72.9% となっている。また、「8. 支援してほしいことは特になし」は「1. 男性」（21.0%）、「2. 女性」（20.0%）である。

年齢別でも性別と同様に各年代で「1. 玄関前の除排雪」の割合が最も高く、「1. 75歳以上」（83.3%）、「5. 20歳～34歳」（88.4%）、「6. 20歳未満」（85.7%）では 80% を超えており、「2. 65歳～74歳」（75.5%）、「4. 35歳～49歳」（70.0%）で 70% 以上である。唯一、「3. 50歳～64歳」では 50.9% と 50% 台に止まっている。

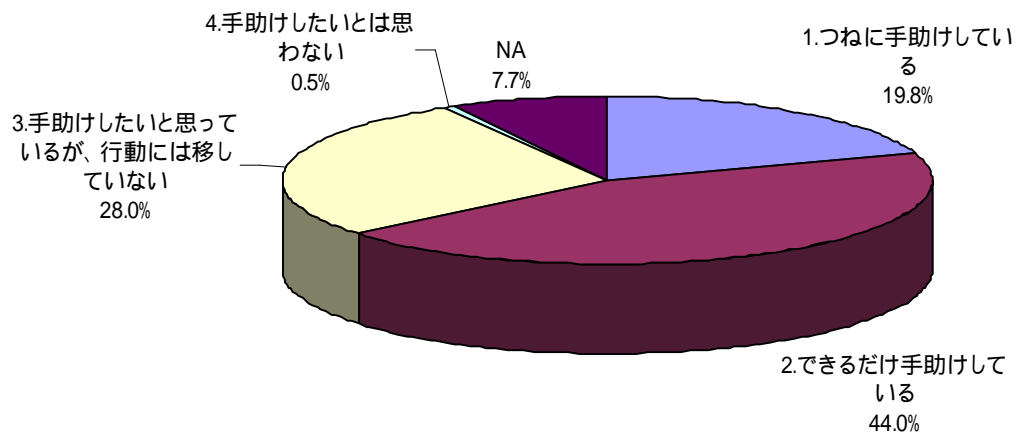
「1. 玄関前の除排雪」では、「1. なんの問題もない」人が 75.5%、「2. 何らかの障がいがある」人が 62.5% と前者の回答割合が高くなっているが、「4. 声かけ安否確認」（10.0%）、「5. 買い物の手伝い」（12.5%）、「6. ごみ出しの手伝い」（10.0%）では、「2. 何らかの障がいがある」人の方が高い割合となっている。



## 心のバリアフリー

問 14 あなたは、冬期間、車いすの方がゴミステーション前で進めなくなっていたり、視覚障がいを持っている方が駅で迷ったりした場合、声をかけて手助けいたりしますか。あてはまる番号に「\_\_」をつけてください。

冬期間、障がい者が困っている場面で声をかけて手助けいたりしますか

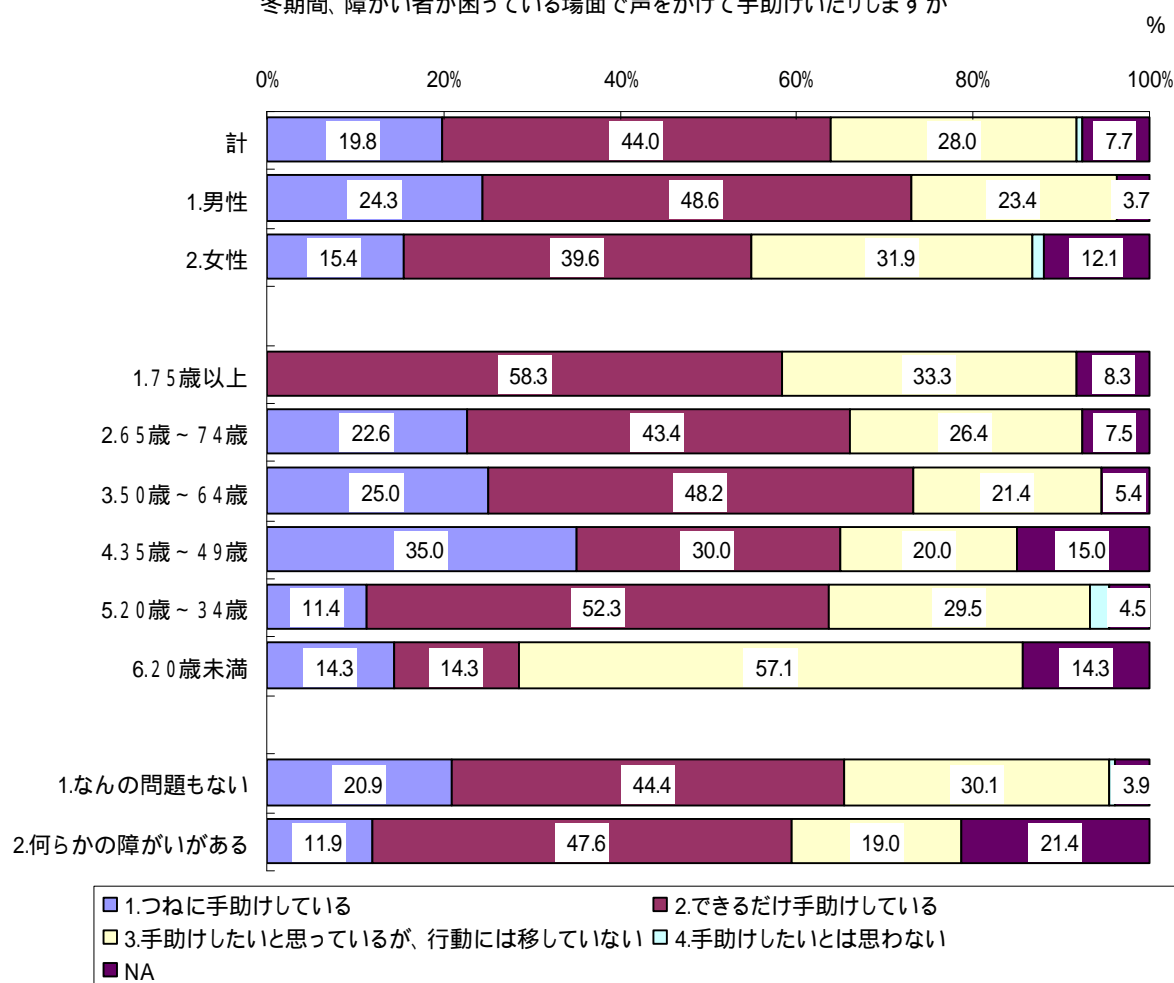


「冬期間、障がい者が困っている場面で声をかけて手助けいたりしますか」との問に対して、「1. つねに手助けしている」(19.8%)、「2. できるだけ手助けしている」(44.0%)の合計は63.8%を占めている。

次に、「3. 手助けしたいと思っているが、行動には移していない」(28.0%)が続き、「4. 手助けしたいとは思わない」は0.5%とわずかである。

「冬期間、障がい者が困っている場面での声掛け、手助け」は、「1. つねに手助けしている」(19.8%)、「2. できるだけ手助けしている」(44.0%)、合計で63.8%を占める。

冬期間、障がい者が困っている場面で声をかけて手助けいたしますか

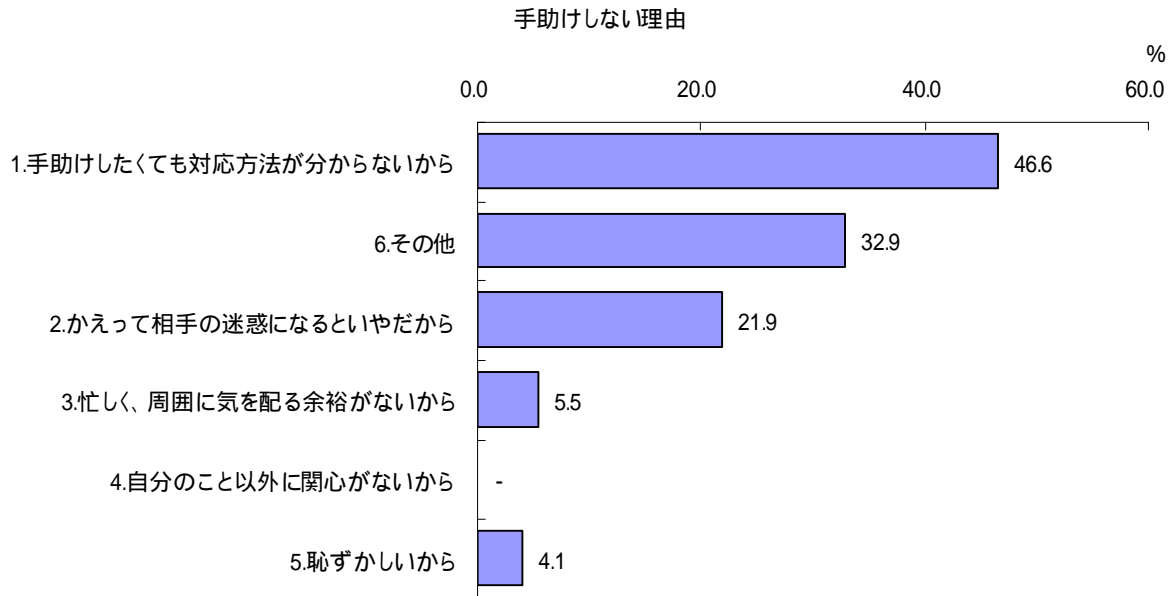


性別にみると「1.男性」が「1. つねに手助けしている」と「2. できるだけ手助けしている」との合計は72.9% (24.3% + 48.6%)であるが、「2.女性」の合計は、55.0% (15.4% + 39.6%)に止まっている。

年齢別では、「1. つねに手助けしている」と「2. できるだけ手助けしている」との合計は「6. 20歳未満」の28.6% (14.3% + 14.3%)を除き約6割以上を占めている。

「1. なんの問題もない」人の合計は65.4% (20.9% + 44.4%)、「2. 何らかの障がいがある」人の合計は59.5% (11.9% + 47.6%)となっている。

問 15 問 14 で 3、4 と回答した方におたずねします。手助けしない理由はどれですか。  
あてはまる番号にいくつでも をつけてください。

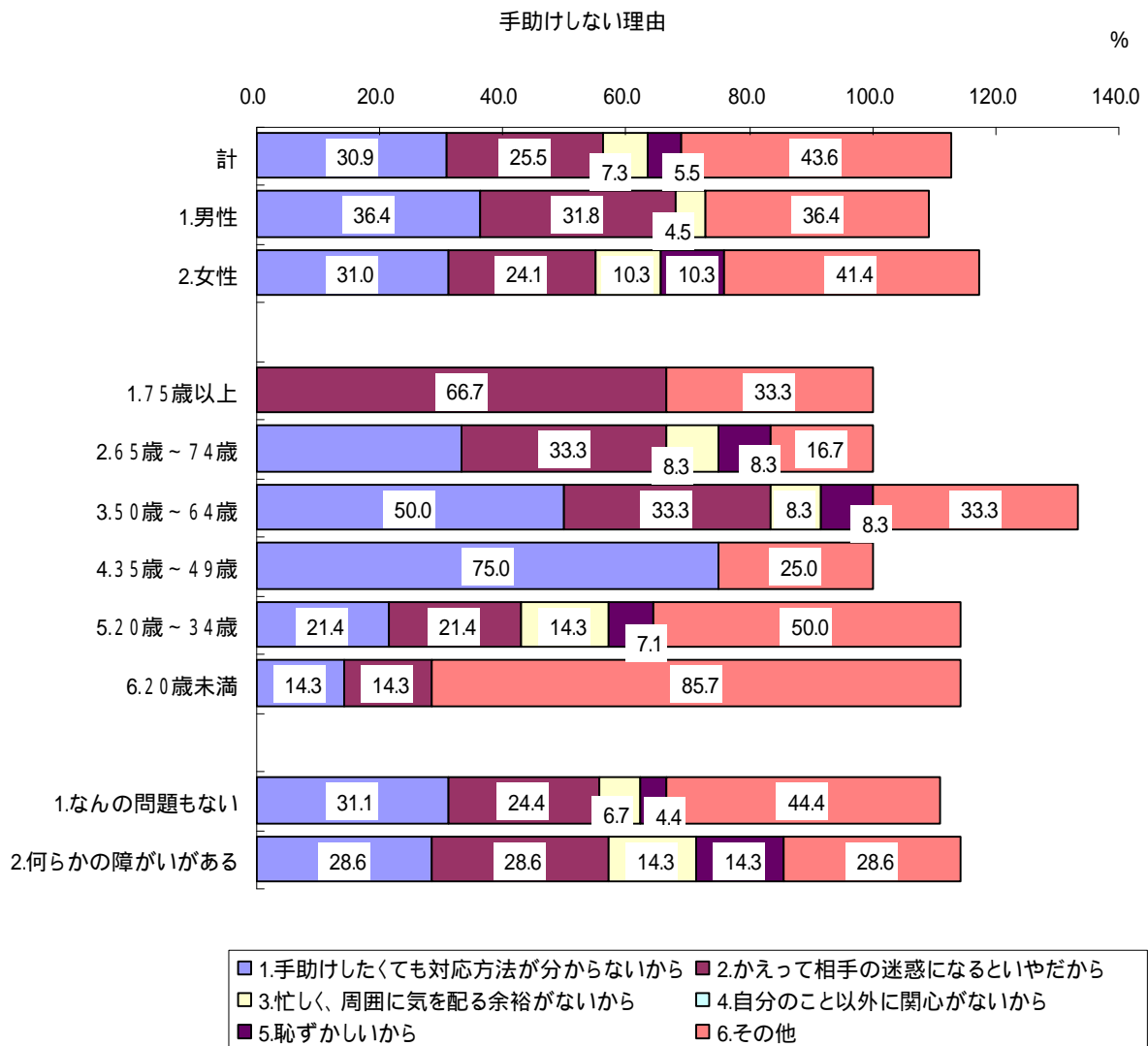


「冬期間、障がい者が困っている場面で声をかけて手助けいたりしますか」との問に対して「手助けしない理由」を聞いた。

「1.手助けしたくても対応方法が分からないから」(46.6%)、「6.その他」(32.9%)、「2.かえって相手の迷惑になるといやだから」(21.9%)などへの回答割合が高くなっており、「3.忙しく、周囲に気を配る余裕がないから」(5.5%)、「4.自分のこと以外に関心がないから」(0.0%)を選択する回答者はわずかであった。

「6.その他」の内訳を見ると「そのような場面に合っていない」、「機会がなかった」という回答がほとんどを占めている。

「冬期間、障がい者が困っている場面での声掛け、手助けをしない理由」は、「1.手助けしたくても対応方法が分からないから」(46.6%)、「2.かえって相手の迷惑になるといやだから」(21.9%)への割合が高い。

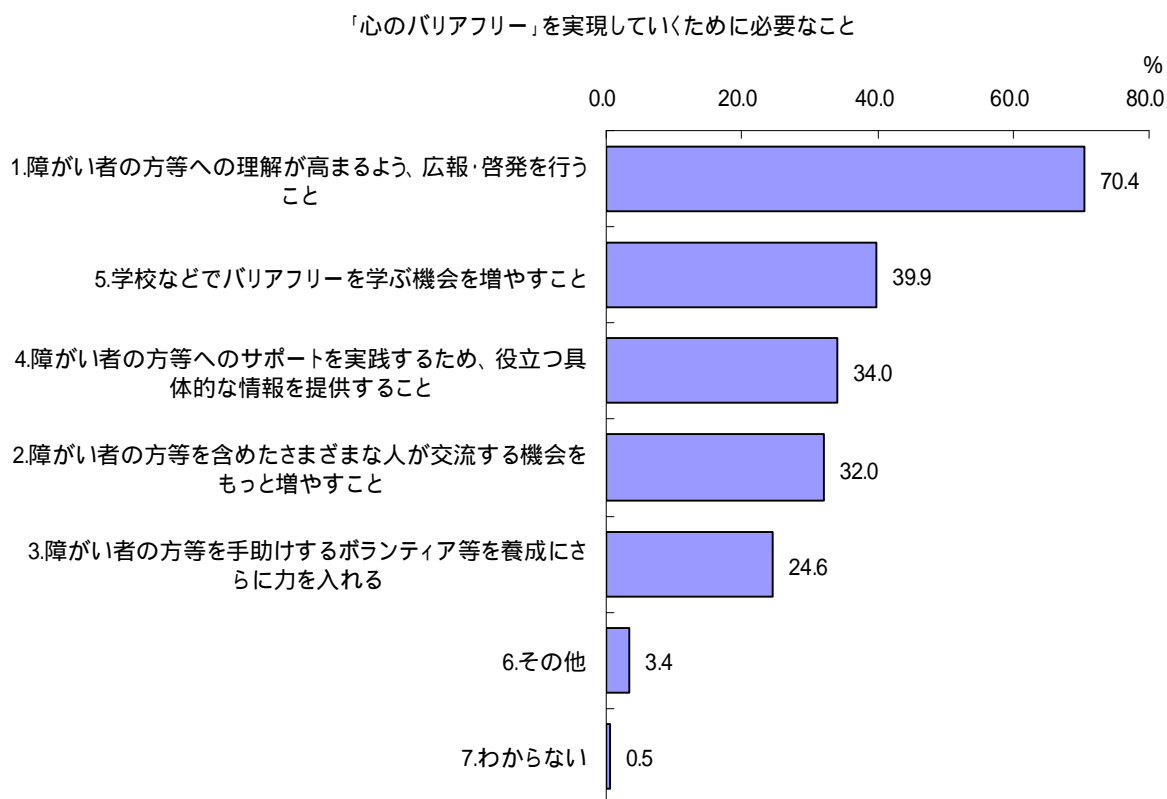


性別にみると男性、女性共に「6.その他」への回答割合が高くなっており、前述のようにほとんどが「そのような場面に合っていない」などの内容で占められている。

年齢別では、「1.75歳以上」から「4.35歳~49歳」までは年齢が下がるにしたがって「1.手助けしたくても対応方法が分からないから」の割合が増加しているが、34歳以下の年代では20%前後の数値になっている。

「1.なんの問題もない」人と「2.何らかの障がいがある」人との間にはそれほど大きな差はみられないが、「5.恥ずかしいから」という理由では「2.何らかの障がいがある」人の方14.3%とやや高い。

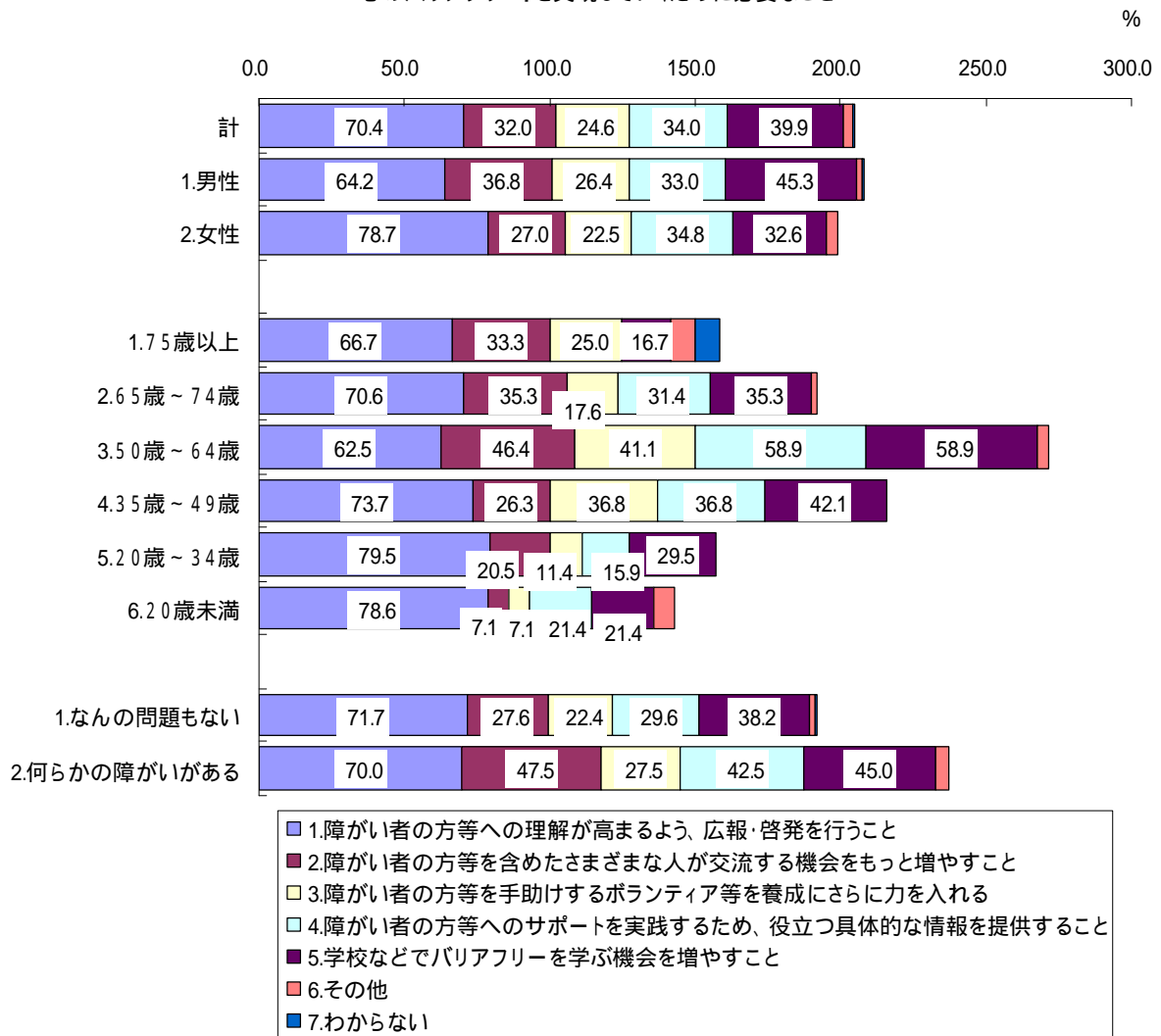
問 16 あなたは「心のバリアフリー」を実現していくために、これからどのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号にいくつでもをつけてください。



「心のバリアフリーを実現していくために、これからどのようなことが必要だと思いますか。」と聞いたところ、「1.障がい者の方等への理解が高まるよう、広報・啓発を行うこと」(70.4%)が最も高く、以下、「5.学校などでバリアフリーを学ぶ機会を増やすこと」(39.9%)、「4.障がい者の方等へのサポートを実践するため、役立つ具体的な情報を提供すること」(34.0%)、「2.障がい者の方等を含めたさまざまな人が交流する機会をもっと増やすこと」(32.0%)、3.障がい者の方等を手助けするボランティア等を養成にさらに力を入れる」(24.6%)の順になっている。

「心のバリアフリーを実現していくために必要なこと」は、「1.障がい者の方等への理解が高まるよう、広報・啓発を行うこと」(70.4%)が最も高い割合を占める。

「心のバリアフリー」を実現していくために必要なこと



性別では、「1.障がい者の方等への理解が高まるよう、広報・啓発を行うこと」への回答が「1.男性」(64.2%)に対して「2.女性」(78.7%)と、14.5ポイント高くなっているが他の項目は男性、女性の割合が誓い値になっている。

年齢別では、「1.障がい者の方等への理解が高まるよう、広報・啓発を行うこと」への回答が「3.50歳~64歳」(62.5%)から「5.20歳~34歳」(79.5%)の範囲にほぼ収まり、各年代で最も高くなっている。また、「3.50歳~64歳」世代では、「2.障がい者の方等を含めたさまざまな人が交流する機会をもっと増やすこと」(46.4%)、「3.障がい者の方等を手助けするボランティア等を養成にさらに力を入れる」(41.1%)、「4.障がい者の方等へのサポートを实践するため、役立つ具体的な情報を提供すること」(58.9%)、「5.学校などでバリアフリーを学ぶ機会を増やすこと」(58.9%)と、2~5への回答割合が他の年代のそれぞれの項目の中で最も高い割合を占めていることが目を引く。

「1.障がい者の方等への理解が高まるよう、広報・啓発を行うこと」への回答は、「1.なんの問題もない」人が71.7%、「2.何らかの障がいがある」が70.0%と近い値になっている。しかし、2~5への割合では「2.何らかの障がいがある」人の回答割合が「1.なんの問題もない」人の割合をすべて上回っている。

問 17 心のバリアフリーを推進について、何か意見がありましたら、記入をお願いします。

心のバリアフリーの推進については、賛同する内容がほとんどである。

「障がい者の方々が周りの人に何を期待し、心がけて欲しいかを知ることが重要だと思います。そのためには、障がい者の方々にいろいろな場面、機会に意見を聞き、それを市民に知らせることです。」など広報に関する意見や、「学校教育、幼稚園、保育園での早い時期からの対応」など教育、「やりたくても手を出しにくい状況があると思います。日常的に交流できる機会がもっと増える工夫が必要と思います。」など機会、「障がい者、高齢者に限らず、困った人を助けてあげられるように子どものころから教えていく環境が必要」など環境と、様々な角度からの意見が寄せられた。

「心のバリアフリーの推進」には、賛同する意見がほとんどである。

問 18 公共交通機関(バス・地下鉄・タクシー)やお店などにお勤めの方にお伺いします。

事業に従事している立場から、バリアフリーについて意見がありましたら、記入をお願いします。

公共交通機関やお店などにお勤めの方にバリアフリーについて意見を求めたところ、バスに関する意見が多く見られた。

具体的には、「道路の縁石が高い、除雪の雪のかたまりなどでバスを寄せられないところがある」、「バスは簡単に乗降できる構造にできないものでしょうか。スロープの引き出し、車椅子の固定などもっと簡易であれば障がい者の方の外出する機会も増えるのでは」などである。

また、「バリアフリー施設にするためには金が掛かるので補助制度を充実させて欲しい」など資金面の援助を求める内容も寄せられている。

「バリアフリーについての意見」では、「バスの乗降、利用のし易さ」と「資金面の援助を求める意見」が多く寄せられた。

**冬期の生活に関する意識調査に  
ご協力をお願いします。**

札幌の冬は、年間約6メートルもの雪が降るといわれています。この厳しい自然環境のなかでも、安全に、そして快適な生活をするのは私たち共通の願いです。高齢の方や障がいのある方をはじめ総ての人が、自分の持てる能力を活用し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会を築いていきたいものです。

このため、冬期間におけるバリアフリーに関する現状の評価やこれからの要望を把握するための意識調査を行い、今後のバリアフリーを進めていくうえで活用していきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

札幌市福祉のまちづくり推進会議 冬のバリアフリー部会

冬期の生活に関する意識調査の質問項目について

問1

冬期の生活

問2、問3、問4

公共交通機関

問5、問6

大雪などへの対応

問7

歩道の通行

問8、問9

除雪

問10、問11、問12、問13

冬期間の市民の協力

問14、問15、問16、問17

心のバリアフリー

問18

事業者の方への質問

事務局 札幌市役所保健福祉局高齢福祉課 福祉のまちづくり担当

TEL211-2976 FAX218-5179







### 歩道の通行

問7 冬期間、歩道を歩いて困ったことはありましたか。あてはまる番号にいくつでもをつけてください。また、何に困りましたか。カッコの中に具体的に書いてください。

#### 記入例

1 障害物（具体的に：不法駐車により、歩道を歩けなかった。 ）

- 1 障害物（具体的に： ）
- 2 歩道の段差（具体的に： ）
- 3 信号機の利用（具体的に： ）
- 4 点字ブロック（具体的に： ）
- 5 横断歩道（具体的に： ）
- 6 歩道橋（具体的に： ）
- 7 つるつる路面（具体的に： ）
- 8 道路わきの雪山（具体的に： ）
- 9 ロードヒーティングの境目（具体的に： ）
- 10 マンホールにできた雪の穴（具体的に： ）
- 11 その他（具体的に： ）

### 除雪

問8 今後の除雪において、強化してほしいことはありますか。あてはまる番号にいくつでもをつけてください。

- 1 歩道の除雪
- 2 生活道路の除雪
- 3 交差点の除雪
- 4 高齢者や障がいのある方の玄関前の雪処理
- 5 バスの乗り場の除雪
- 6 地下鉄やJRの駅の除雪
- 7 その他（具体的に： ）
- 8 強化すべきことは特になし





問 17 心のバリアフリーを推進について、何か意見がありましたら、記入をお願いします。

問 18 公共交通機関(バス・地下鉄・タクシー)やお店などにお勤めの方にお伺いします。事業に従事している立場から、バリアフリーについて意見がありましたら、記入をお願いします。

あなたのことについて おたずねします

F 1 あなたの性別はどちらですか。あてはまる番号を1つをつけてください。

- 1 男性
- 2 女性

F 2 あなたの年齢はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つをつけてください。

- 1 75歳以上
- 2 65歳～74歳
- 3 50歳～64歳
- 4 35歳～49歳
- 5 20歳～34歳
- 6 20歳未満

F 3 あなたのお住まいの区はどちらですか。あてはまる番号に1つをお付けください。

- |       |        |
|-------|--------|
| 1 中央区 | 6 豊平区  |
| 2 北区  | 7 清田区  |
| 3 東区  | 8 南区   |
| 4 白石区 | 9 西区   |
| 5 厚別区 | 10 手稲区 |

F 4 冬期間のあなたの外出頻度はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つをつけてください。

- 1 毎日
- 2 週3～5日
- 3 週1～2日
- 4 週1日未満

F 5 冬期間の外出の目的は何ですか。あてはまる番号にいくつでもをつけてください。

- 1 通勤
- 2 通学
- 3 通院
- 4 買い物
- 5 余暇や趣味の活動
- 6 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

F 6 あなたの現在のおからだの状況はつぎのうちどれですか。

あてはまる番号に1つをつけてください。

- 1 なんの問題もない
- 2 何らかの障がいがある

\* 付属の問 F 6で2と答えた方におたずねします。あなたの障がいの内容について、あてはまる番号にいくつでもをつけてください。

- 1 視覚障がい
- 2 聴覚障がい
- 3 肢体不自由
- 4 内部障がい
- 5 その他